

# 田原本町における学習空間環境調査

2017年1月12日と2019年1月24日

小松原 尚

## 1. 問題意識

田原本町は奈良盆地の中央に位置する。奈良市より近鉄線で30分の位置にある。近鉄奈良駅より徒歩10分の立地条件にある奈良県立大学にとっては格好の野外活動の場である。そして、著者の専攻分野である地理学における教育研究は、地域における環境を対象に自然現象と人文現象を具体的、統一的に把握する、あるいはその手法を磨くことに主眼があるから、本町内の豊かな自然や文化、産業を素材とする野外活動は地理学学習そのものの構成物でもある。

この調査の対象となる学習空間環境とは、学生諸君の学びの場と教育活動のための素材となる場所である。また、この種の教育活動においては、座学で得た知識を踏まえ、実体験を通して定着させることも大切となる。その意味から、日常の講義、すなわち座学で学んだことを大学の外で学生自らが実際に確認する機会である。同時に、学生が訪れた地域において、その活動がそこで生活する人々にとっても暮らしつづけるための刺激となるものである。そして、学生自身も自らの活動が社会化されることに気付く学習活動の一環でもある。

また、この調査の対象となる学習環境とは、学生諸君の学びの場と教育活動のための素材である。また、この種の教育活動においては、座学で得た知識を踏まえ、実体験を通して定着させることも大切となる。そのためには行政機関や工場・作業での担当者からの聞きとり調査や見学など、体験的調査活動も併せて実施する。

## 調査報告

### 2. 調査その1（2017年1月12日実施）の概要

「古代風景と陣屋町の佇まいのある田原本町を歩きながら地図にない今の街を見つける」をテーマとした。活動目的としては、①自治体が作製した町の紹介地図を利用して町内をグループで歩きながら、地図では表現しつくされていないその町の特徴を発見する。②活動を通して、グループワークの方法を身にふれる。③地域経済コモンズの関連科目やこれまで自らが地域創造学部で履修した諸科目の授業内容と活動内容との関連性を考えることとした。

対象学生は地域経済のコモンズゼミⅡ【小松原区分担当の3年生】選択者（15名）であった。活動は、田原本町のフットマップを利用したグループ活動による地域発見の旅であり、①必ずグループで一緒に行動する。②地図の各地点を訪れるラリー形式を採用する。コースの設定はグループで相談して、時間内に効率よく回れるように考えておく。16時10分に終わられるように無理のない行動計画を作成する。③立寄地点に着いたら、グループ全員の集合写真を撮影し、それを小松原の下記のアドレスまで添付送信するものであった。

### 3. 調査その2（2019年1月24日実施）の変更点

テーマと活動目的は、前回と同じにて実施した。活動内容は前回とは若干異なっていた。まず、集合場所を田原本駅にしたこと。これは当駅が近鉄の急行停車駅であり、2限目終了後に13時に集合するので、その利便性を考慮してのことであった。そして、グループごとに集合確認の後、田原本町役場まで移動したことである。これは最初に町の概要を役場のスタッフから全員がうかがっておくのが良いとの判断からである。そして、グループごとに到着確認の後、石見駅で解散とした。



「磯城の里ウォークパンフレット」15ページより引用。

## 調査報告

### I 2017年1月12日の調査

#### 1. 石見駅から唐古・鍵遺跡までの移動中における観察

第1の1表 徒歩移動中に眺められる景観で、興味のある地点とその内容

調査者番号	観察結果
01	石見駅から東へ徒歩約3分で到着するところにある石見鏡昨神社である。その理由としては、事前学習でこの神社は、縁結びで有名な出雲大社と深いかわりがあることを知っていたので、実際に訪れたいと思っていたからだ。一見、今までの学外活動の中で訪れてきた神社と何ら変わりのないように思えるが、境内には、鏡池という小さな池があり、湖面に反射して、映し出された景色が美しかった。また、この池は、島根県松江市に位置する八重垣神社の鏡の池と対応させて考えると、非常に興味深く感じた。
02	唐古・鍵遺跡への移動中に整備途中の史跡公園を見たが、まるで遺跡の発掘でもしているかのように草々が刈り取られており、土が丸見えになっていた。近くには車道が通りワーカーマンや飲食店と言った基本的な商業施設が設けられたいわゆる普通の景観であったため、史跡公園はひときわ目を引いた。
03	寺川の中や堤防沿いにたくさんのゴミがあった。あの地域の河川はなぜ例外なくゴミだらけなのだろうか。
04	国道24号線のロードサイドには、スーパーマーケット、コンビニエンスストアや飲食店などがたくさんあり、栄えていた。
05	基本的に住宅地が多く、田んぼよりも畑が多かったように思う。国道24号線の付近は車が多く通っていることもあり、コンビニエンスストアやチェーン店の飲食店、ガソリンスタンドなどが立ち並んでいた。
06	国道24号線沿いには飲食店やコンビニエンスストアなど交通量が多いため、たくさんの店舗が並んでいた。そのほか、バイク屋やスーパーマーケットなど地元の人たちに必要なものが揃う店舗が並んでいた。この国道沿いに奈良吉野大台ケ原発祥「あざさの柿の葉すし」を売るお店があった。
07	中街道を通りたかったが、どの道が中街道なのか分からず、気づいたら24号線に出ていた。途中細い道がたくさんあったので、中街道もそれぐらい細いのか気になった。24号線に出たら歴史のある街並みの風情はなく、車の往来が激しかった。途中に柿の葉寿司の店もあり、奈良のお土産店も出店していることが分かった。
08	石見駅より少し進んだ場所に緑の背の高い建物が建っており気になった。防災関連の建物だと思われる。明治乳業の工場も見つけることができた。石見駅から離れ、唐古鍵遺跡に近づくにつれ食事処や柿の葉寿司屋など観光客向けの施設が多くあった。
09	今まで訪れた町ではあまり見かけることがなかったコンビニや薬局などがあった。
10	国道24号線沿いにネットカフェやコンビニがあった。これまでの三宅町や

	川西町でも交通量の多い道路はあったが、なぜ24号線沿いは多種多様な小売店が多いのか気になった。
--	---

第1の2表 交通上の危険箇所、道路渋滞など、学習のための移動に際して、注意喚起の必要な場所とその内容

調査者番号	観察結果
01	途中のルートで車通りが非常に多いところ（マップでいうと唐古南の辺り）があったので、自転車やバイクにも注意して、一列に整列して並んで歩くべきだと思った。また、その通りを横断するときに、信号がなかったため、基本的なことではあるが、手を挙げて左右を確認してから渡るべきだと思った。
02	史跡公園前の道は歩道が非常に狭く、すぐ近くに車が通る上に自転車による通行者もそこそこ多い。基本的に2人並んで歩く事は出来ない程の狭さである為、対向者には十分に気を付けなければならない。
03	国道24号線を横断する交差点が危険な場所だった。また、移動に使用した歩道のほとんどが狭かった。
04	国道24号線は交通量が多いため、危険である。道路を横断する際は必ず横断歩道を渡る、または歩道橋を利用すべきである。
05	ルートに従って歩こうとすると、国道24号線の側端を歩くことになるが、車が多く行きかうので非常に危険である。（歩道と車道の区別は一応ついているが、歩道は狭い。）歩道橋は積極的に利用すべきである。
06	国道沿いは交通量が多く歩道が狭くなっていた。そのため移動は少し住宅街を歩いた方がより風情があり安全であると思われる箇所が見られた。押しボタン式の信号機が横断歩道により多く設置されていれば安全であると考え。しかし、横断歩道がないところにおいては歩道橋が設置されている箇所も存在し、横断には歩道や歩道橋、押しボタン式の信号の利用が望ましい。
07	4号線は車の往来が激しいので、横断したり歩道を歩いたりするときは格段の注意が必要。大きな道に出るまでは細い道ばかりなので、車がすぐそばを通り過ぎ、1列で歩かなければ危険。
08	唐古鍵遺跡付近では車の交通量が多く、歩道も狭かった為注意が必要であった。
09	石見駅からは歩道のない道が続いていたが唐古・鍵遺跡は大通りに面していたため信号を渡るときに気を付ける必要があった。
10	寺川を渡って県道24号線へ続く道で、歩道の幅が狭く、ガードレールのない道があった。

第1の3表(1) 学習の場として利用する場合に、学生が予め準備しておくべきこと

調査者番号	観察結果
01	今回も前回と同様に、当日、道に迷って他のメンバーに迷惑がかかることがないように、事前に配布されたフットマップを確認するべきだと思っ

## 調査報告

	た。その上で、石見駅から唐古・鍵遺跡までの道のりは、東へ進んで行くと、容易に到着できるように思えるが、実際、そのようなことはなかったので、マップに頼りすぎることなく、更に自分で調べて書き加える必要があると思われる。
02	学習の場として利用する際道の狭さや通行のしにくさがあるため、荷物はカバンではなくリュックサックなどの両手が開いて身軽に行動できる類のものが好ましいと感じた。また史跡公園周辺の道はところどころアスファルト舗装がまだ済んでいない部分もあるため、水たまりが多く存在した。故に運動靴などの汚れてもよい服装が好ましい。
03	今回は指定された場所だけを回れば良いので、効率良く歩きまわるだけでなく、深みのある発見ができるように、移動ルートを考えておくこと。
04	自治体が作成した観光マップに沿って調査を行うのであれば、歩行距離が長く疲れるため、前日にきちんと休息をとり、体調を整えるべきである。
05	訪問予定のエリアマップの準備。そのエリアについて予習しておくこと。危険な場所がないかの確認。
06	事前学習、地理的情報の取得、チェックポイントを通過するための下見。
07	マップ、防寒具、スニーカー、立寄地点で何を見るのか考えたメモ等、カメラ又は携帯（スマホ）
08	唐古遺跡の歴史を調べておく。
09	なかなかの距離があるので荷物は最小限にしておくこと。
10	マップ、雨具、動きやすい服装

### 第1の3表(2) 移動中の装備としてあったらよいと考えられるもの

調査者番号	観察結果
01	前回とは違って、移動距離が短い、油断することなく、歩きやすい格好で行くべきだと思われる。また、石見駅から唐古・鍵遺跡に行くまでに、着用していた上着が非常に汚れてしまったので、汚れてもよい服装で来るべきだとも思った。
02	－
03	歩きやすい靴。移動しやすいリュックなど。
04	冬は寒い地域であるため、手袋やマフラー、カイロなどの防寒具があるとよい。
05	撮影用のスマホ・カメラ、雨天時のための傘やレインコート、時計
06	磯城の里ウォークパンフレット、動きやすい服装、時計、カメラ、筆記用具、フィールドノート、雨具、防寒具、田原本ふるさとカルタ
07	マップ、防寒具、飲み物
08	足場が悪かった為スニーカーを履用する。
09	標識などがなかったので地図は必須だと感じた。
10	急な天候の変化などに備えて雨具や防寒着などがあってほしいと思われる。



第1の3表(3) 移動中に安全に過ごすための留意点

調査者番号	観察結果
01	前回と同様に、あくまで団体行動なので、他の通行人に対しても配慮しつつ、移動するべきである。また、基本的なことだが、交通ルールを守って行動するべきである。
02	-
03	時間に余裕をもって移動する方が良い。また移動の邪魔にならない程度の防寒具を用意する方が良い。
04	自治体が作成した観光マップに沿って調査を行うのであれば、歩行距離が長い場合、靴は長距離を歩いても疲れないウォーキングシューズのようなものにすべきである。
05	身軽な恰好にしておくこと。荷物を取り出しやすいようにしておくこと。危険な場所は避けること。
06	コンビニエンスストアは国道沿いに出るところで一箇所あるので、トイレは駅またはコンビニエンスストアで済ませておく。暖かい飲み物があると望ましい。
07	車の往来が激しい道では周りに常に気を配る。歩きスマホはしない。先にマップを見ておき、ある程度地形に慣れておく。
08	くつろげるような場所は殆ど無かった。
09	道が狭いところも多いため広がって歩かない。
10	道幅が狭いので幅をとって歩かないこと。

2. 唐古・鍵遺跡から唐古・鍵考古学ミュージアムまでの移動中における観察

第2の1表 徒歩移動中に眺められる景観で、興味のある地点とその内容

調査者番号	観察結果
01	唐古・鍵遺跡から唐古・鍵考古学ミュージアムまでの道のりにおいては、マップでいうと、農道から望む龍王山と書いてある地点が印象的であった。その理由としては、田畑が広がった先に山が大きく聳え立っており、まるで、奈良盆地を見守っているかのように見えたからである。改めて、磯城郡は、自然と共存して、暮らされていることがわかった。
02	歴史的な趣の残る住宅が集まる地点や、新興住宅のように現代的な外観の住宅が集まる地点など、その場その場によって住宅の外観に違いが見られた。寺川の周辺に現代的な住宅地が多かったように思える。また道路はアスファルトではなく砂利によって舗装されている部分が多く見られた。
03	途中安養寺などに立ち寄ってみたが、唐古・鍵遺跡ほどの案内板は無く、控えめに案内板がある程度だった。また道のすぐわきに崩壊しかけている家屋があったが、何らかの事情で撤去されていないままだった。
04	田原本青垣生涯学習センター 弥生の里ホールは大きく立派なホールであった。どのような用途で使用されているか気になった。

## 調査報告

05	直接、唐古・鍵考古学ミュージアムへ向かってよかったが、せっかく田原本まで来たので、寄り道していこうと、マップ②今里杵築神社、③今里の浜、へ寄った。今里杵築神社は小さな神社で、宮司さんらしき人を見かけた。
06	唐古・鍵遺跡にて史跡公園整備中のところがあり芝生が植えられていた。公園内は広く景観もよくのんびりできる場所だったので、完成すれば磯城の里ウォークパンフレットのポイントとして大きな観光資源となりうると考えられる。また、パンフレットでも紹介されていたように農道から望む龍王山は立派で壮大なものであった。
07	小学校があったので、歴史遺産の近くに建っていることにより授業で遺跡を見学に行くことはあるのか興味を持った。遺跡の近くはほとんどが田畑で建物は少なかった。建ててはいけないようになってきているのだろうか(条例等で禁止されているのか)。小学校があるからか、24号線に歩道橋がかかけられている箇所があった。龍王山が天気の良い日少し霞んでいた。
08	ミュージアム付近に大きな池があった。また田畑がかなり多い印象を受けた。マクドナルドの看板を見つけたことができた。
09	ミュージアムまではほぼ大通りを一直線で、地図に載っているように大通りの各ポイントに通りの名前が書かれており現在地が把握しやすかった。また、大通りにはファミレスやガソリンスタンドなど今までの町では見られなかった建物もあった。
10	ミュージアムの周りには広い水田や農地が広がっていた。なぜ、農地の中心にミュージアムを建てようと思ったのか気になった。

## 第2の2表 交通上の危険箇所、道路渋滞など、学習のための移動に際して、注意喚起の必要な場所とその内容

調査者番号	観察結果
01	石見駅から唐古・鍵遺跡までの道のりと同様に、車通りが非常に多いところ（国道24号線のあたり）は、特に移動するときは注意が必要であると感じた。また、たとえ自分が気を付けていたとしても、相手が気付いていない場合もあると考えられるので、合図を場面に応じて、効果的に用いるべきだと思った。
02	死角が非常に多く、カーブミラーの数が少ない。道が入り組んでいるため車両が通る事は多くないが、それでも自転車での衝突事故などが生じる可能性は高いと言える。
03	安養寺から役場に向かう道は、狭いうえに交通量も多いので注意が必要。ただしその他の道も同じような状況であった。
04	下ッ道（中街道）は道幅が狭く、また舗装されていないところもあり、危険である。唐古・鍵考古学ミュージアム周辺は畑や田んぼが多く、ぬかるんだ畦道も多い。そのような道は避け、きちんと舗装された道を歩くべきである。
05	国道24号線付近はやはり車が多く行きかうので危険である。しかし、畑などのあぜ道を通っていくにも足元が安定しないため危険である。細い路地が多かった。



06	今のウォークパンフレットでは国道沿いを歩く距離が多く設定されているが、危険が伴うためチェックポイント②今里杵築神社、③今里の蛇巻きを先に訪れ、①の唐古・鍵遺跡をその後訪れるルートが安全であると考えた。下ツ道、万行寺、八坂神社を通るより安全なルートがあれば良いと思う。
07	24号線は車の往来が激しいのに、横断歩道があるところの歩行者用の信号がない箇所があった。24号線沿いは多くのお店があるため、歩いている時も駐車場から出てくる車に気を付けなければならない。
08	ミュージアム付近には大きな車道があり、交通量も比較的多かったので道路を渡る際は気をつけなければならない。
09	ほぼ大通りを歩いていくが一般車両だけでなく大型トラックも多かった。しかし歩道が整備されており、安全面は考えられていた。
10	24号線のガードレールのない歩道は狭いので、一列になって歩くこと。

第2の3表(1) 学習の場として利用する場合に、学生が予め準備しておくべきこと

調査者番号	観察結果
01	唐古・鍵遺跡から唐古・鍵考古学ミュージアムまでの行く途中に、遺跡と何らかの関わりのある地点があるかもしれないので、事前に調べて行く必要があると思った。その上でマップと対応させて、行なうべきであると思われる。
02	移動時、目印になるものが少なく道が入り組んでいる事もあって現在地を確認しづらかった。地図やマップよりは、スマートフォンのアプリケーションのようにGPS機能を用いて現在地と地図を同時に把握できるようなものがあれば好ましいと感じた。
03	地図には乗っていないような見所を知っておくと、新しい発見ができる。
04	自治体が作成した観光マップに沿って調査を行うのであれば、歩行距離が長く疲れるため、前日にきちんと休息をとり、体調を整えるべきである。
05	訪問予定のエリアマップの準備。そのエリアについて予習しておくこと。危険な場所がないかの確認。
06	事前学習、地理的情報の取得、チェックポイントを通過するための下見
07	マップ、防寒具、スニーカー、立寄地点で何を見るのか考えたメモ等、カメラ又は携帯(スマホ)
08	途中道に迷ってしまった為、行き方をきちんと調べておくべきだったと反省した。
09	なかなかの距離があるので荷物は最小限にしておくこと。
10	地図、歩きやすい靴、服装。近くに店舗がないので、飲料などは予め用意したほうがいい。

## 調査報告

第2の3表(2) 移動中の装備としてあったらよいと考えられるもの

調査者番号	観察結果
01	同様に、汚れてもよい・動きやすい服装で来るべきだと思われる。また、この日は、強風で非常に寒かったので、防寒対策も忘れずに、カイロや手袋などは持って行くべきであると思った。
02	－
03	移動しやすい靴。移動しやすいリュックなど。
04	冬は寒い地域であるため、手袋やマフラー、カイロなどの防寒具があるとよい。
05	撮影用のスマホ・カメラ、雨天時のための傘やレインコート、時計
06	磯城の里ウォークパンフレット、動きやすい服装、時計、カメラ、筆記用具、フィールドノート、雨具、防寒具、田原本ふるさとカルタ
07	マップ、防寒具、飲み物
08	遺跡付近、農道付近は足場が悪いのでスニーカーを履用する。
09	地図通りに曲がったはずが1本間違っていたりしたので現在地がわかるように携帯があれば便利だと感じた。
10	天候の変化に備えて、雨具があるといい。

第2の3表(3) 移動中に安全にくつろぐための留意点

調査者番号	観察結果
01	移動中に、きちんと整備されていない道に出合ったりしたので、足元には十分に気を付けて歩くべきだと思った。また、同様に、団体行動であることを忘れずに、思いやりをもって行動するべきである。
02	－
03	唐古・鍵遺跡のほとんどは舗装がされていないため、ぬかるんでいるところがある。不快な移動になってしまわないように留意する必要がある。
04	自治体が作成した観光マップに沿って調査を行うのであれば、歩行距離が長いと、靴は長距離を歩いても疲れないウォーキングシューズのようなものにすべきである。
05	身軽な恰好にしておくこと。荷物を取り出しやすいようにしておくこと。危険な場所は避けること。
06	コンビニエンスストア、トイレはこの区間のルート沿いに多くあるため、それほど気に掛ける必要はない。暖かい飲み物があると望ましい。
07	車の往来が激しい道では周りに常に気を配る。歩きスマホはしない。先にマップを見ておき、ある程度地形に慣れておく。
08	くつろげるような場所は見当たらなかった。
09	いくら歩道があるとはいえ大型トラックなどは危ないので広がらない。
10	道幅が狭いので幅をとって歩かないこと。

## 3. 唐古・鍵考古学ミュージアムから田原本駅までの移動中における観察

## 第3の1表 徒歩移動中に眺められる景観で、興味のあった地点とその内容

調査者番号	観察結果
01	唐古・鍵考古学ミュージアムから田原本駅までの移動中においては、特に「雲水堂」という和菓子のお店の前の通りに興味を持った。理由としては、その通りの両脇に老舗のお店が数多く立ち並んでおり、田原本町の歴史を感じさせるような町並みが印象的だったからである。また、ここを拠点として、町を形成し、発展されていったのではないかとも思った。
02	今までとは異なり、緑が植えられていたり車道歩道共に広く設けられていたりとかなり中心市街地的な印象を受けた。またミュージアム近くにある阪手池を始めとして、周囲にかなりため池のようなものが設置されていた事が気にかかった。田原本駅周辺は基本アスファルト舗装であったが、本誓寺や津島神社の周辺は石畳のようなもので舗装されており、寺社の周辺だけまるで別の場所であるかのような印象を受けた。
03	田原本駅周辺には、これまでの駅にはなかったような飲食店・居酒屋・コンビニなどがあった。また大きなロータリーも整備されていた。ただ駅周辺の家屋は比較的古く、自身が起こった際は大きな被害が出るのではないかとも感じた。
04	田原本駅付近には、プラモデルの専門店や履物屋などのおもしろい店がたくさんあった。
05	田原本町役場にたどり着くことのできる橋を1度見逃すとかかなり遠回りしてたどり着かなければならなくなるので、気をつけていた。田原本駅前には西田原本駅をつなぐ広場になっていて、様々なイベントを催すことができるのではないかと考えた。
06	移動途中、大和・山の辺の道探訪物語や唐古・鍵と刻印された鉄の案内がコンクリートに設置されていた。帰ってから調べてみたところ、歩く・なら「やまと天理・伝説謎解き道めぐり」という近鉄桜井線沿いで行われているウォークコースの目印にもなっていたことがわかった。街全体で磯城の里ウォークパンフレットに掲載されている場所を盛り上げる動きがあり活気があった。
07	ミュージアムの近辺が田畑ばかりであまり栄えていなかったのが気になった。ミュージアムから役場までは大きなきれいな道路だったが、一本逸れるだけでとても細い道になる。車等はどうしているのか気になった。旭町商店街や戎通りが思っていた以上に寂しく小さかったので、役場の職員の方が教えて下さった活性化のための対策は効果があるのか疑問に思った。
08	移動中、唐古鍵遺跡が描かれているマンホールを見つけることができた。田原本駅付近には商店街があったが、殆どの店が閉まっており活気が見られず残念であった。
09	はじめは新築の家などが見られたが、駅の周辺は結構年季がはいった家が多かった。駅は今までで1番ひらけていた。神社がいくつか固まっていた。

## 調査報告

10	本誓寺、浄照寺周辺の街並み。石畳の古風な道が続いていた。町立図書館のブックポスト。田原本駅の近くに図書館の返却ポストがあって、なぜ駅の近くにあるのか気になった。
----	--

### 第3の2表 交通上の危険箇所、道路渋滞など、学習のための移動に際して、注意喚起の必要な場所とその内容

調査者番号	観察結果
01	田原本駅に向かう途中で、車道と歩道を区別する白線がないところがあったので、そこには特に十分に気を付けて歩くべきである。また、本誓寺あたりの前の通りから2つ目の角を曲がるときに、カーブミラーがあるにも関わらず、車が左右の確認をせずに、突っ込んできてしまい、危なかったため、注意が必要である。
02	役場周辺は車道が大きいだけあって車の通行量が非常に多く、歩行者用の信号が少ない。また歩行者用の信号はかなり年季が入って緑色が色褪せており、逆光の場合は非常に見にくいらしく感じた。
03	田原本駅周辺は住宅地や店が多くあるが、やはり交通量も多かった。車が1台通れるかどうかというくらい狭い場所もあった。
04	田原本駅周辺は踏切が多い。踏切を横断する際は周囲に注意すべきである。
05	国道24号線付近はやはり車が多く行きかうので危険である。寺川では雨天時は洪水などに注意したい。
06	坂出北交差点を除き交通量は少なく、歩道もあったため比較的 safely に移動できた。しかし、交通量がない分交差点では車がスピードを出して進入してくる場合があり注意が必要である。
07	ミュージアムから役場までは比較的大きな広い道が続いていたので、歩道も余裕があり危険だとは感じなかった。役場から駅までの道は細い所が多く、前から車が来たら、止まって譲らなければならなかった。駅前ロータリーがあり整備されていたので、危険な箇所といえは線路を渡る時であろう。
08	駅周辺は道が狭いが、車は殆ど通っていないため安全である。
09	迷うことはなかったが道が入り組んでおり、交通量もそこそこあった。
10	田原本駅周辺の踏切、本誓寺、浄照寺周辺は道幅が狭く、見通しが悪い。

### 第3の3表(1) 学習の場として利用する場合に、学生が予め準備しておくべきこと

調査者番号	観察結果
01	唐古・鍵考古学ミュージアムから田原本駅までの道のりは、比較的、住宅やお店が多く立ち並んでいたため、事前にどのようなところを立ち寄るのか調べておく必要があると思った。そのようにすれば、効率よく回ることができ、より田原本町のことを理解できるようになると思うからである。
02	田原本駅周辺は道が非常に入り組んでおり、かつ寺社や観光ステーション

	など立ち寄るべきポイントも多く存在する。その為グループで行動する場合集合場所を詳細に決めておく必要性が強いと思われる。
03	田原本駅周辺は道が狭く、道に迷ってしまいそうなため、何か目印となるようなポイントを定めておくと良い。
04	自治体が作成した観光マップに沿って調査を行うのであれば、歩行距離が長く疲れるため、前日にきちんと休息をとり、体調を整えるべきである。聞き取り調査を行う場合、質問内容をフィールドワークノートにまとめておくと良い。
05	訪問予定のエリアマップの準備。そのエリアについて予習しておくこと。危険な場所がないかの確認。
06	事前学習、地理的情報の取得、チェックポイントを通過するための下見
07	マップ、防寒具、スニーカー、立寄地点で何を見るのか考えたメモ等、カメラ又は携帯（スマホ）、学生証、メモ帳又はノート
08	駅の周辺に立ち寄れる施設はあるかどうかを調べておく。
09	なかなかの距離があるので荷物は最小限にしておくこと。
10	道に迷った時の為に携帯のGPSを使えるようにしっかり充電すること。

**第3の3表(2) 移動中の装備としてあったらよいと考えられるもの**

調査者番号	観察結果
01	この道のりにおいては、比較的、住宅街が多く整備された道が多かったので、汚れてもよい服装でなくてもよいと思われる。しかしながら、防寒対策は必ず必要であると移動中に強く感じた。
02	-
03	移動しやすい靴。手提げバッグではないリュック。
04	冬は寒い地域であるため、手袋やマフラー、カイロなどの防寒具があるとよい。
05	撮影用のスマホ・カメラ、雨天時のための傘やレインコート、時計
06	磯城の里ウォークパンフレット、動きやすい服装、時計、カメラ、筆記用具、フィールドノート、雨具、防寒具、田原本ふるさとカルタ
07	マップ、防寒具、飲み物
08	道はでこぼこではなく整備されているので特に必要はない。
09	標識などがなかったので地図は必須だと感じた。
10	駅につくまでは、店舗があまりないので、各自で飲料水などを確保しておく。

**第3の3表(3) 移動中に安全に過ごすための留意点**

調査者番号	観察結果
01	なるべく、事前に設定したルートで移動するべきだと思った。なぜなら、近道だと思って入った道が危険な場所である可能性が出てくるからである。また、広がって歩かず、整列して移動するべきだと思われる。

## 調査報告

02	-
03	田原本駅周辺は車にとっての抜け道でもあるようなので、車の接近には注意したい。また前回ほど、スポット同士が離れていないので、少々余裕をもって移動しても問題は無い。
04	自治体が作成した観光マップに沿って調査を行うのであれば、歩行距離が長いので、靴は長距離を歩いても疲れないウォーキングシューズのようなものにすべきである。
05	身軽な恰好にしておくこと。荷物を取り出しやすいようにしておくこと。危険な場所は避けること。
06	唐古・鍵考古学ミュージアム、役場、ゴール付近にもトイレが多数あり移動は安心して行える。安全に移動するためには、道が細く曲がり角がわかりにくいところがあるため、マップの拡大コピーと道路標識などの案内をこまめにチェックしながら歩く必要がある。
07	車の往来が激しい道では周りに常に気を配る。歩きスマホはしない。先にマップを見ておき、ある程度地形に慣れておく。
08	移動中くつろげるような場所はなかった。
09	怪しい道は通らず、なるべく住宅がある道を通る。
10	道幅の狭い道では、車の往来に気を付ける。

## 4. 唐古・鍵遺跡での現地体験観察

第4の1表 ここでの見学によって田原本町に関してどのような興味深い知見が得られたか。

調査者番号	観察結果
01	唐古・鍵遺跡は、個人的に写真で見たことがあったので、いつかは行ってみたいと思っていた。やはり、写真よりも迫力があり、復元されているとはいっても、特徴的な渦巻き状の屋根が特に印象的であり、田原本町のシンボルの役割を果たしていると感じた。また、この楼閣は、当時の中国大陸から影響を受けて、建てられたものであることを知り、中国とは深いかかわりがあったことを象徴するような建物であることに興味を持った。
02	遺跡の中心に立つ楼閣はかなり巨大なモノであり、周辺からは青銅器などの破片も多く発掘されている。その為田原本町はかつては広大な集落が存在していたのではないかと推測される。
03	高校の日本史の教科書にも掲載されるような場所でもあるので、大々的に整備されているかと思いきや、草原の中にため池と櫓のレプリカが立っているという状況だった。遺跡自体の整備よりも、ミュージアムの整備に力を入れたようである。
04	弥生時代、唐古・鍵遺跡の周辺（田原本町）は、近畿の中心的な集落であった。唐古・鍵遺跡からは絵画土器が百数十点出土しており、これは全国の3分の1を占めている。唐古・鍵遺跡は建物の構造から宗教的な建造物であったと考えられている。



05	唐古・鍵遺跡の誕生の歴史、発掘調査の現状（歴史、出土品など）について記載された看板があり、理解を深めることができた。また、展示品は唐古・鍵考古学ミュージアムに展示しているとのことであったので、この次に訪れた唐古・鍵考古学ミュージアムへ興味を持つきっかけにもなった。
06	磯城の里ウォークパンフレットの表紙に写真が掲載されている唐古・鍵遺跡を見ることができた。弥生時代を代表する遺跡として国史跡に指定されている。東側に位置する史跡公園と交流促進施設として西側に道の駅が平成30年4月にオープン予定であることが県立美術館で調査済みだったので、完成に関心が高まる。完成に向けて整備が行われていたので完成すれば是非見に行きたい。
07	遺跡は単なる農耕集落ではなく、物流センター的な機能も持ち合わせていた。遺跡の周囲1km以内には、衛星集落や墓地が存在。遺跡からは、河内や伊勢湾岸地域、遠くは岡山県南部や天竜川流域の土器が出土しており、物資流通の中心的な役割を果たしていた近畿地方の中核的な集落である。1994年に復元された楼閣がある。
08	唐古鍵遺跡は弥生時代の環濠集落遺跡であり、集落は、大型建物や高床・堅穴住居、木器貯蔵穴、井戸、区画溝などの遺構で構成されている。大環濠は直径400メートルの範囲を囲み、外濠を含めた全体では約42万平方メートルの面積を占める。出土遺物は土器、農工具・容器などの木製品、石鏃や石包丁などの石器、骨角器、卜骨などの祭祀遺物、ヒスイ製勾玉、楼閣が描かれた絵画土器など特殊な遺物も出土していることが分かった。また、唐古鍵遺跡は工事中で近いうちに公園が出来ることを知った。
09	楼閣以外はがらんとしており、それが余計に楼閣の存在感を感じさせた。
10	楼閣のそばにあった唐子池は灌漑用のため池で江戸時代に作られた。唐子池も人口で作られた池で、石見鏡作神社の周辺と同じく、昔の環濠の跡かと思っていたが、遺跡とは関係がないことが分かった。周辺の水田に給水するために高地に作られたらしく、偶然遺跡と位置が重なっただけのようだった。

#### 第4の2表 案内板などの設置状況と説明文は適切、わかりやすかったか。

調査者番号	観察結果
01	唐古・鍵遺跡の前いくつか案内板があったのだが、文章だけでなく、写真を何枚か載せて効果的にわかりやすく説明されていたので、この遺跡のことを知らない方達にも十分理解できるような内容であったと思われる。その中で、特に、遺構や遺物の出土場所を掲載した地図の写真がさらに、田原本町内を観光する方達にとって、非常に助けとなるのではないかと考えた。
02	史跡公園の設備が未だ途中なこともあるのか、案内板のようなものはほとんど発見する事が出来なかった。
03	一目でここが唐古・鍵遺跡であるという事は理解できた。他の地域で見た案内板よりも写真がついていたり良く整備されていた。
04	遺跡の100mほど手前、遺跡の前に案内板があった。どの案内板も唐古・鍵遺跡についての説明文や地図が丁寧に詳しく記載されていた。

## 調査報告

05	石見駅をスタートし、国道24号線に出てからは、その線沿いに唐古・鍵遺跡は位置しているので、場所自体はわかりやすかったが、実際に建物がある場所までは道路沿いからかなり離れており、歩道を通っていこうとしののだが、かなり遠回りしてしまった。もう少し短いルートを考えてほしいと思った。また、案内板をもう少し人の目につくような位置に設置してほしいと考えた。
06	唐古・鍵遺跡までの道としては案内板が少なく、途中マップ通りのコースを辿ると遠回りになる箇所が見られた。途中近道をすることで遺跡内を大きく観察できるような場面もあり、効率的な散策にはマップのルートの他に詳しい案内板が設置されていれば良いと考える。遺跡内容説明文は十分と言える内容であった。弥生研究の上で学史的に重要で、かつ、弥生時代の社会や生活文化を知る上で極めて貴重な遺跡として国の史跡に指定されたいせきのあらましについてなどが詳しく説明されていた。また楼閣についても出土した土器絵画を元に復元したことについて説明されていた。また「日本の弥生文化を知る・学ぶ」ため唐古・鍵考古学ミュージアムの紹介がされていた。
07	遺跡についてや楼閣についての説明文はとても分かりやすく、また端的に示されていた。出土した土器や遺跡の写真と一緒に載せてあり想像しやすかった。24号線に出たら、遺跡への案内板は何カ所かあったが、24号線を外れるとあまり見受けられなかった。
08	遺跡のあらすじや説明図などが載っている大きな案内板があり、わかり易く簡潔に書かれていて良かった。楼閣について書かれている看板も設置されていた。
09	説明が1か所に3つあり、唐古・鍵遺跡の説明、唐古・鍵ミュージアムの案内、復元された楼閣の説明が書かれていた。
10	案内板は楼閣の前に数か所設置されており、説明文の文章は見やすかった。しかし、楼閣以外に観る物は特に何もなく、整備中の為立ち入れる範囲も限られているように見えた。また、唐子池の案内板は発見することができなかった。

### 第4の3表 町内の店舗で販売の商品にはこの遺跡に因んだものがあつたか。また、受け入れられ易いものだったか。

調査者番号	観察結果
01	田原本町内を歩いていく中で、何軒もの店舗の前を歩いてはいたが、唐古・鍵遺跡に因んだ商品を販売しているお店には出会わなかった。「楼閣くん」といったマスコットキャラクターが存在しているにも関わらず、活かされていないのが非常に残念に思った。一方で、「雲水堂」といった有名な老舗の和菓子のお店があり、その評判を聞きつけて、町外からわざわざ来られる方達が多くいらっしゃることを知り、広く受け入れられている店舗だと思った。
02	周囲に存在する店舗はチェーン店がほとんどであり、あまりこの遺跡に関連した商品は見受けられなかった。
03	遺跡に関したものを売っているというような様子は見られず、周辺の道路

	を見ても典型的なロードサイドの店舗があるというだけだった。しかも、遺跡の横には天理ラーメンの店があり、田原本のオリジナリティーというものは、唐古・鍵遺跡周辺からは感じられなかった。
04	唐古・鍵遺跡は小学生の教科書にも記載があり、大変有名な遺跡である。そのため、遺跡に因んだ商品を販売している店舗が多くあるものだと考えていた。しかし、実際町内を探索すると、そのような商品を販売している店舗を発見することができなかった。
05	今回、フィールドワークで歩いている間には、唐古・鍵遺跡にちなんだ商品は見つけることができなかった。
06	町内において唐古・鍵遺跡にちなんだ商品は見つけることができなかった。フィールドワーク後、田原本駅に観光ステーション「磯城の里」という町の航空写真や歴史年表、唐古・鍵遺跡などの重要文化財や伝統行事の写真パネルが展示されている場所かあることを知った。WEBで調べた限りお土産などはありそうになかった。道の駅が完成すれば観光ステーションと合わせて商品を売れる店舗になれば良いと考える。
07	私たちが入った店では遺跡に関するようなものは置いていなかった。
08	唐古鍵遺跡に因んだ商品を見つめることは出来なかった。
09	ミュージアムにある飲食店に「やよいランチ」というご飯があった。
10	遺跡付近にある店舗といえば、24号線沿いのコンビニや飲食チェーン店等が多かった。しかし、遺跡に因んだメニューや商品は取り扱っていないようで発見できなかった。

## 5. 唐古・鍵考古学ミュージアムでの現地体験観察

第5の1表 ここでの見学によって田原本町に関してどのような興味深い知見が得られたか。

調査者番号	観察結果
01	唐古・鍵遺跡は、高校の日本史の教科書に掲載されていたので、知っているのだが、どのような成り立ちで作られたのかといった詳しいことまでは理解していなかった。これを機に、田原本町では、弥生時代に近畿地方を中心にムラを形成し、居住されていたことから、遺跡として残っていたという興味深い知見を得ることができた。また、展示物の多くは、埴輪や土器などで当時の方達の暮らしを知ることができ、他の遺跡との関わりについても調べてみたいと思った。
02	田原本町は弥生時代広大な集落が存在したと推測されている。青銅器の破片や住宅と思わしき形跡、また狩猟や作物の採取に用いたであろう道具などが見つまっているからである。その為、雨乞いなどの豊穰を祈願する文化が強く根付いていたという。
03	これまでに踏査した地域にはなかった「観光スポット」がまさにこのミュージアムである。しかし、建物自体はミュージアムのためだけではなく、町民ホールや図書館なども併設されていた。田原本町肝いりの建物という事が容易に感じられた。

## 調査報告

04	1595年、平野権平長泰が田原本町に寺内町を形成。次いで2代目の長勝が寺内町の東の寺川沿いに陣屋を築造した。これ以後、田原本町は陣屋町として発展した。唐古・鍵ムラの東南部には、銅鐸や武器などを鑄造する青銅器の工房が置かれていた。
05	事前に毎週木曜日のコモンズゼミⅡで行っていた「田原本ふるさとカルタ」に登場した牛形埴輪や、ミュージアムと隣接する「青垣生涯学習センター」など、実際に実物を目で認識することができた。田原本町役場の訪問予定時刻を考え、少ししか見学することができなかったが、入館料が100円であることを考えると十分な展示品数であったと感じた。
06	奈良県立美術館にて紹介されていたされていた勾玉を見ることができたほか、美術館に設置されていた唐古・鍵考古ミュージアムのパンフレットで確認できたものを実際に見ることができ良い体験ができた。それに加え、田原本ふるさとかるたに出てきた馬と馬曳きの埴輪も見ることができたので事前学習が活かされた。
07	田原本町で発掘された土器のほとんどが絵画土器である。日本で発掘された700～800の絵画土器のうち、半分を田原本町が占めている。唐古・鍵遺跡は日本最大級の遺跡である。日本で一番きれいな翡翠の勾玉が発見され、かなり位の高い人物がいたことが推測される。また、60cm～80cmの大きな柱や柱跡が見つまっていることから、巨大な建物が当時は建てられていたことが分かる。
08	唐古鍵考古学ミュージアムで展示されている勾玉は世界で一番綺麗な翡翠の勾玉だということを案内の方の話を聴き知った。また、全ての絵画土器700～800の半分がここに展示されているという。
09	教科書で見ていた昔の人の暮らしに使う道具が実際に見られたことがよかった。また、それ以外にも動物の骨の一部などもあった。
10	ミュージアムに展示されている重要文化財の牛型埴輪など埴輪には優品が多いとパンフレットで知った。唐古・鍵遺跡は実物資料が充実しており、歴史や考古学的にとっても価値があると思った。しかし、その割には、グッズ販売といった遺跡のアピール活動はあまり盛んでないような印象を受けた。

### 第5の2表 案内板などの設置状況と説明文は適切、わかりやすかったか。

調査者番号	観察結果
01	ミュージアム内は、第1室「唐古・鍵の弥生世界」、第2室「唐古・鍵の弥生世界」、第3室「田原本のあゆみ」といったように3つの部屋で区切られており、順番通りに見ると弥生時代のことが一通りよくわかるように工夫されていることがわかった。また、館内にいらっしやっった学芸員の方達が展示物の説明文に書かれていないことまで適切に教えて下さり、より知見を広げることができたように思われる。
02	当時の生活を再現するミニチュア人形などを用いたり、弥生人の特徴を説明するために現代人と骨格を比較していたりと、非常に分かりやすく資料について説明されていた。また実際に発掘された住宅の柱の実物が壁に展示されていたり、発掘の様子が床下に展示されていたりと、意外性に

	富んだ展示方法がされていたように思う。
03	田原本町単独でこのレベルの展示施設を作ることはできないだろうと思ってしまいうぐらいに、素晴らしい展示であった。管理もきちんとされているようで、動物の小さな骨片などの紹介分もあった。また、歴史に精通した案内役ボランティアの方もいた。
04	時代に沿った展示、映像資料を利用した展示で、分かりやすく良かった。写真を撮ってはいけないものには、きちんと撮影禁止マークが掲示されており良かった。案内係の方々も非常に丁寧で良かった。
05	ショーケースは綺麗で、清潔感があった。掃除が行き届いているように思った。 そのため、鑑賞もしやすく、展示品1つ1つに解説がついていたため、理解を深めやすかった。ただ、撮影禁止の展示品とそうでない展示品が隣同士にあってしまったため、ややこしくも感じた。もう少し、展示品同士の距離を離したり、撮影禁止の文字を強調したりするなど工夫ができるのではないかと思った。
06	館内の展示方法はまず中に入ると、床がガラス張りになっていて遺跡の発掘の様子を上から覗き込むことができた。実際に発掘していた時の様子が想像でき展示方法としては優れていた。また絵画土器を参考にして作られた模型が展示されており当時の様子を伝えるのには大きな役割を担っていた。また環境イメージを促進するためにスクリーンに映し出す演出があった。手にとって実際に土器や勾玉に触れる機会がありその他にもボランティアガイドの方が丁寧に解説をしてくださり多くのことを教えていただいた。 これらの充実した展示内容に対して、価格は学生料金で1人100円という入館料の安さにも驚いた。
07	館内に入って二階にミュージアムがある案内はあったが、二階に上がるとその案内が消え、代わりに公民館の案内が出るので分かりにくかった。ミュージアムに入ってすぐ下に発掘中の様子が分かるような遺跡のレプリカがあり、柱や土器がどこでどういう風に見つかるのか分かった。案内員の方の説明もとても分かりやすく、初めて知るようなこともあった。
08	展示室自体は少し狭かったのだが、ジオラマで当時の暮らしがわかり易く展示されていたり、また床の一部がガラス張りになっていて下に、発掘調査で掘り出された様子がリアルに再現されていた。展示物を見ていると案内人の方が声をかけて下さり、絵画土器について教えて下さった。
09	3つのブースにわかれており、見日に埴輪・土器、奥に生活に使っていた土器(高杯、甕)、手前に動物の骨、まつりの様子のジオラマがあった。埴輪・土器のところには年表があり、近世まで土器があったことがわかった。
10	展示品を目で見て観察する以外に、銅鐸の模造品や出土品を実際に手で触れられるコーナーがあった。また、床下には発掘調査で発見された大型建設物の柱穴を埋め込んだものがあり、それ以外にも人間の頭蓋骨や当時の様子を再現した模型があった。館内の説明板はあまりなかったが、その代り展示物がかかなり充実していて、展示案内のパンフレットも頂いた。

## 調査報告

### 第5の3表 町内の店舗で販売の商品にはこの遺跡に因んだものがあったか。また、受け入れられ易いものだったか。

調査者番号	観察結果
01	唐古・鍵考古学遺跡ミュージアムに置いてある資料やチラシ等をいくつか頂いたのだが、ミュージアム内の案内だけでなく、田原本町との関わりが書かれているパンフレットがあり、現地に見合って作成されていることが見受けられた。また、ミュージアムグッズの販売はなかったのだが、1階に「カフェ弥生」というお店があった。そのメニューの中に、「やよいランチ」といった特別メニューがあり、集客力を図る工夫がなされていることが分かった。
02	グッズ販売などは特に見られなかったが、配布されたパンフレットはセピア調で和紙のような模様を背景としており、懐古的な雰囲気を持ったものであった。その為この展示に非常にマッチしていたと感じる。
03	たくさんのチラシはあったが、遺跡に関するものはグッズ化されていないという状況であった。また、歴史に興味のある人のためにか、奈良国立博物館のチラシなどが置かれていた。
04	資料やチラシは現地の状況に見合ったものだった。ミュージアムでのグッズ販売は見受けられなかった。同施設内にある公民館やカフェではグッズ販売も行っていないようだった。
05	唐古・鍵考古学ミュージアムや、唐古・鍵遺跡についての資料（チラシ）が多かった。ミュージアムグッズに関しては、田原本町役場の訪問予定時刻を考え、あまり館内をゆっくり見ることができなかったが、目につくグッズは見かけることができなかった。
06	館内においてミュージアムグッズの販売は確認できなかった。しかしパンフレットなどは多数見ることができ、関連施設などを協力して宣伝していた。館内で提供された資料は展示内容を田原本のあゆみと題し、館内の展示構造を紹介しながら魅力を伝えていた。これは県立美術館にあるものより興味を引く内容であったと考察した。県立美術館で設置されていたパンフレットはどのように展示しているかについては詳しく紹介されておらず、今回魅力として着目した展示方法を伝えるのに十分ではなかった。ネタバレになるような展示品の紹介は避け、展示方法の紹介があれば良いと考える。
07	遺跡についてやミュージアムについての資料を頂き、現地のことについて詳しく書かれていた。グッズ販売は見受けられず、パンフレットの販売はあった。
08	展示案内のパンフレットを貰ったが、簡潔にまとめられておりわかり易い内容であった。館内では唐古鍵遺跡ミュージアムの展示品ごとの解説が載ってあるミュージアムコレクションという冊子や、資料目録などの冊子が販売されていたが他のグッズ等の販売は無かった。
09	入場の時資料を2冊用意しており、解説をしてくれる方が2.3人いた。ミュージアムにある飲食店に「やよいランチ」「桃太郎弁当」というご飯があった。
10	ミュージアムの下の階にレストランがあり、そのメニューの中に「やよいランチ」というものがあった。しかし、特に「やよいランチ」を強くア



	ピールしている様子は無かった。ミュージアム内では、展示のみで特にグッズの販売は行われていなかった。
--	---

## 6. 田原本町役場での職員の方への対人聞きとり調査

### i) Aさんの場合

#### 第6のA表(1) 現場や現地での暮らしや仕事への関心、それを続けたい意欲、経済的基盤(収入面)。

調査者番号	観察結果
01	お話を聞いていく中で、仕事をライフワークとして考えられていて、一つ一つの課題に対して解決していくことにやりがいを感じているようであった。残業が特に多い3、4、5月や稀にイベントで土日出勤をすることは、大変ではあるが、ワークライフバランスは十分にとれているので、充実した生活を送れているようであった。収入面においては、やはり比較的小さいが、安定的ではあることを教えて下さった。

#### 第6のA表(2) 現在に至る前、自分自身のこれまでの暮らし方や働きぶりを振り返り返してもらおう。なぜ、今の仕事に就いたのかも教えていただく。

調査者番号	観察結果
01	今回、お話を聞かせて頂いた方は、桜井市出身なのだが、お隣の町である田原本町に馴染みがあり、また、住民の方達とより多く接する機会の多い仕事に就きたいと思って、役場の職員となったようである。また、仕事をする上で、公平・公正さを保つことを常に気を付けながら、これからの学校教育の在り方に関するアンケート調査を定期的に行なうなど、要望になるべく応えるようにしているようである。

#### 第6のA表(3) 住民や職場の人たちとのかわりほどの程度か。

調査者番号	観察結果
01	現在、おられる部署は、教育委員会事務局といって、住民の方達と接する機会は少ないようだが、学校との連携を取るために、校長先生と接する機会は多いようである。その方達の要望をなるべく受け入れられるように臨機応変に対応することは、非常に難しいことではあるが、やりがいは強く感じているようだった。

## 調査報告

### ii) Bさんの場合

#### 第6のB表(1) 現場や現地での暮らしや仕事への関心、それを続けたい意欲、経済的基盤(収入面)。

調査者番号	観察結果
02	Bさんは公務員の職務への関心として、法律や条例を作ることができるのは公務員の魅力の1つだと仰っていた。以前より住民同士のトラブル(騒音や異臭など)を解決したいと言う意欲があったというBさんは、法律を作ることで公的な立場から住民の生活を守ることができるという点が職務を続けたいと思う理由なのだと言った。
03	もめ事を事前に防ぎたいという小さな思いがあり、制度設計を唯一行う事の出来る職種の公務員を志望した。まだ、住民と深く関わる窓口業務のある課には配属はされていないが、住民の笑顔はいつ見ても自分のエネルギーとなるようである。

#### 第6のB表(2) 現在に至る前、自分自身のこれまでの暮らし方や働きぶりを振り返り返してもらおう。なぜ、今の仕事に就いたのかも教えていただく。

調査者番号	観察結果
02	母親が田原本町出身だというBさんは、前述したように住民同士のトラブルを公的な立場から抑制したいという考えのもと、田原本町での勤務を志望された。その為に民間からの相談を受ける係をされていた時もあったそうだが、現在では民間事業と契約する入札関連の仕事をしているそうだ。他にも地方税の使い方の透明さを維持する為の仕事もされていた時もあったとのことだ。
03	法学部だったという事もあり、司法試験を受け続けていたがなかなか受からなかった。もめ事を事後的にという事ではなく、事前に防ぎたいという事から公務員を目指した。ただ奈良県内でも、20代後半でも採用のある場所がこの役場だった。

#### 第6のB表(3) 住民や職場の人たちとのかわりほどの程度か。

調査者番号	観察結果
02	民間の方からの相談を受ける事は現在ほとんどなく、民間企業との書類を通じた連絡をすることがほとんどだそう。また、Bさんの所属される係では職員同士の中は極めて有効であり、アットホームな雰囲気だと言われているとのことだ。
03	企業の入札に関わる見積もりを担当する契約検査係という事もあって、窓口業務に関わっているという事はあまりない。ただし、工事などの関係者などとはよく話をするようである。

## iii) Cさんの場合

## 第6のC表(1) 現場や現地での暮らしや仕事への関心、それを続けたい意欲、経済的基盤(収入面)。

調査者番号	観察結果
04	さまざまな事業に関われる総合政策課の仕事にずっと関心があり、他の課から移動してきた。総合政策課では「やどかり市」といったイベントの仕事が印象的だったようだ。またそのようなイベントの仕事に携わりたいと仰っていた。Cさんの生まれ育った町が田原本町であり、「地元だから」ということが最も大きな仕事を続けたい意欲につながっている。
05	総合政策課では、史跡の整備や総合政策のとりまとめを行ったり、ふるさとカルタのデザイン、駅前イベントなどの企画を進めたりしている。特に、「ぼちぼち田原本」という観光協会の冊子。

## 第6のC表(2) 現在に至る前、自分自身のこれまでの暮らし方や働きぶりを振り返り返してもらおう。なぜ、今の仕事に就いたのかも教えていただく。

調査者番号	観察結果
04	元々理系の仕事に就きたく、仙台にある大学の理系学部に進んだ。しかし、さまざまな会社のインターンシップに参加したが、やりがいを感じる仕事がなく、地元に戻って総合政策の仕事が最も自分がやりたい仕事であることに気づき、大学院1年生のときに田原本町役場の採用試験を受けた。無事に採用試験に受かり、田原本町役場の職員になった。初めは防災課にいたが、総合政策課の募集がかかった際に、自ら志願し、総合政策課に移動した。
05	大学は仙台の大学に通い、工学部出身であった。インターンシップで北海道の企業で研修を受けたりもしたが、就職は自分が生まれ育った町でいたいと考え、修士課程1年目で地元である田原本町の役場を受けたそうだ。

## 第6のC表(3) 住民や職場の人たちとのかわりほどの程度か。

調査者番号	観察結果
04	「ぼちぼち田原本」といった広報誌、空き家問題などの仕事では住民の人たちとの関わりが深かったが、それ以外の仕事ではあまり関わりがないようだ。同じ課に所属する人たちとの関わりは深いのが、他の課の人たちとはあまり関わりがないようだ。
05	総合政策課に配属されてからは、住民と職員でわきあいあいと企画を進めていくことが多く、職員同士も仲は良いと聞いた。半年前、防災課に配属されていた時は、空き家の利用について住民と上手く話し合いをすすめることができなかったが多かったそうだ。

調査報告

iv) Dさんの場合

第6のD表(1) 現場や現地での暮らしや仕事への関心、それを続けたい意欲、経済的基盤(収入面)。

調査者番号	観察結果
06	観光まちづくり推進課で働いておられるDさんは田原本役場で都市計画を担っておられる方だった。住宅ニーズが高まる中一戸建ての建設に伴い、入居者と建設会社のマッチングや正しく都市開発ができてきているかなどの区画整備をされていた。これらのおかげで現在田原本では転入があり、少子高齢化には歯止めがかかっている。しかし奈良県内での人的移動が多く、大阪からの転入者を増やすのが目標だと仰っていた。役場での仕事は2年から3年で部署の移動が存在し、新しい仕事内容になるといった柔軟な対応が求められる職場だった。しかしDさんはそれも仕事における良さだと話しておられた。まちづくり推進課はアイデアを挿入していくクリエイティブな仕事が魅力だと教えていただいた。
07	田原本町に住んでいるため、通勤が楽になり、家族との時間が増えた。技術系の仕事を経験し、街づくりに関わりたい。イベントなどの資金はまず町が負担し、徐々に住民の方達だけでやっていけるような基盤作り。町だけの補助金では限度があるため、県や国からの補助金も使って活性化に導こうとしている。都市計画では自分の考えを計画に盛り込めるので、おもしろい。田原本町を活性化するために、道の駅の整備や都市計画に関わっている。
08	前の仕事とは違いみんなでつくりあげていくという事にやりがいを感じることができる。また、仕事量が多すぎないので家族との時間が取れて良い。収入は安定している。

第6のD表(2) 現在に至る前、自分自身のこれまでの暮らし方や働きぶりを振り返り返してもらおう。なぜ、今の仕事に就いたのかも教えていただく。

調査者番号	観察結果
06	Dさんが現在の仕事に就く前は、大阪のメーカー関連の仕事がされていた。完成品の一部を作っているというところに惹かれこの仕事をなさっていた。しかし、自宅の田原本と大阪間の通勤時間はおよそ1時間を要した。ものづくりの仕事は一年中納期に追われ長い勤務時間から家に帰るのが遅くなる日がほぼ毎日だったという。多忙で家族との時間を取るためにも転職を決意し、今の仕事を選んだ。現在は残業もなく、18時には家に帰ることができ家族との時間も取れるようになったと時間的余裕ができたことをあげておられた。
07	前職は自分が作った物の形が見えることがしたいと大阪の技術メーカーに8年間勤めていた。しかし、残業や通勤時間で家族との時間が削られるため公務員に転職。結婚と子供が出来たことが大きな転機。今の仕事だと残業がなく、家族との時間を増やすことができる。
08	元々は大阪のメーカー会社で8年働いていた。人間関係も悪くなかったの

	<p>だが、仕事量が多くスケジュールがきつく、忙しすぎる日々が続き家族との時間があまり取られなかった。今の仕事は観光まちづくり推進課といって、まち作りに関することに関わっている。メーカー会社ではつくるものは定められているが、こちらの仕事ではつくるものを自分たちで考えることができ、自分の意見を差し込むことが出来るのでやりがいがある。また、残業がほぼないので家族と過ごす時間が多く取れるのでこちらの仕事に就いた。</p>
--	---

第6のD表(3) 住民や職場の人たちとのかかわりはどの程度か。

調査者番号	観察結果
06	<p>住民の方との関わりは、協力して仕事をしていくということを強調しておられた。お互いが勝手にやっているという意識でまちづくりや地域振興に取り組むのではなく、「手伝い、手伝う」という意識が必要だと仰っていた。しかし、まだ一部の方からは市政としてやってもらうという考えを持った受け身の方の存在も教えていただいた。職場の人との関わりはチームとして人間関係を大切にしているとのことでそれはどの仕事でも同じだと教えていただいた。将来仕事についた時、チームワークで動く職場での人間関係は自分も大切にしようと思った。</p>
07	<p>観光まちづくり推進課ではほとんど住民との関わりはない。代わりに、建物を建てる業者との関わりが多い。しかし、町を盛り上げるために奮闘しているので、住民の意識改革には一役買っている。</p>
08	<p>メインの仕事では、直接地元の住民と関わることは殆どなく、業者とやり取りをしている。街の活性化では地元民に表にたってもらい、裏からサポートすることがほとんどである。</p>

v) Eさんの場合

第6のE表(1) 現場や現地での暮らしや仕事への関心、それを続けたい意欲、経済的基盤(収入面)。

調査者番号	観察結果
09	<p>働いて4年だそうで3年ほどで配属先が変わる。最初は健康福祉課で、現在は昨年10月にできたばかりの子ども政策改革推進室にいる。前職を活かし、役場でもパソコンデータを活用してすぐにほしい情報がわかるような工夫も行っている。</p>
10	<p>田原本町への愛着は元々あまり感じていなかったが、仕事を継続してそれに慣れていくうちに愛着が持てるようになった。経済的な基盤に関しては、新卒だと約17万円に諸手当がつく。</p>

## 調査報告

第6のE表(2) 現在に至る前、自分自身のこれまでの暮らし方や働きぶりを振り返り返してもらおう。なぜ、今の仕事に就いたのかも教えていただく。

調査者番号	観察結果
09	前職はIT関係の仕事をしていて休みもあまりなく、残業も多かった。結婚など将来を考えたとき、なかなか時間がつくれないと思い公務員になったとおっしゃっていた。
10	元々システムエンジニアとして働いていたが、残業が多く、さらに海外への転勤を命じられることにより、家庭の時間が持たなくなることを危惧し市役所職員に転職した。 これまでの働きぶりとしては、かつてシステムエンジニアだったことを活かして、公務員の仕事の能率化を図った。

第6のE表(3) 住民や職場の人たちとのかかわりはどの程度か。

調査者番号	観察結果
09	最初の配属先の健康福祉課では、住民の方とかかわる機会が多かったらしく、何度も話し合いをしていた住民の方の仕事が決まったときはすごくうれしく、達成感があったようだ。
10	役場内の部署によって、住民との関わりが深いところとそうでない所がある。役所の1階部分には、住民と関わりの深い部署が多くある。弓場さんが所属している、こども政策改革推進室もその一つで、住民からプライベートな相談を受け付けることもある。

## 7. 学習関連観察

第7の1表 今回の活動で得られた知見は、今までのあなたの勉学とどのように関連するか。

調査者番号	観察結果
01	今回の活動においては、「地域構造論」に関連しているように思われる。その理由としては、自然観光資源を用いて集客力を図るといった工夫がされていたからである。この町は、唐古・鍵遺跡を通じて、歴史的な町であることをアピールされており、また、観光開発を進めているのではないかと思った。その手法として、地域構造論で学んだその地域の関心やイメージのアンケートを通じて、行なっていたからである。
02	以前の課外活動において結崎や石見を観察したが、今回の田原本町はこの2つの街とは異なりそこそこ利便性があり、発展に成功していると言った印象を受けた。大きな道が多かったことや、通行量の多い道が多い事、住宅地と商業施設などが明確に分かれて存在していることが理由である。
03	平成の市町村合併で、合併した市町村と合併しなかった市町村の現状を学んできた。地域同士はそれほど離れてはおらず、歴史的な遺産も多くあるという共通点のある多い地域だった。しかし、それら歴史遺産を生かして



	観光振興を行おうという姿勢は、田原本町は顕著であったが、他の2地域はそれほどでもなかった。地域にある遺産などがその地域の政策方針をも変えうるものなのだという事を実感した。
04	コモンズゼミやコモンズ共通科目の中で、Uターンについて学んだ。田原本町役場の役員は半分以上が田原本町出身である。またその中でもUターンで地元に戻ってきた人が多いようだ。コモンズゼミ（小松原先生）では、地域の歴史、文化を活かした地域活性化について学んだ。田原本町では、さまざまな歴史的建築物を活用した歴史ツーリズムを実施し、地域活性化に力を注いでいた。
05	三回生最後の学外活動の集大成といえる。マップの見方については何度もゼミでフィールドワーク活動を行っているため、慣れたと思う。また、現在の公務員講座を学内で受講しているため、実際に職員の方にお話が聞けるのは貴重な体験であり、今後の就職活動に活かしたいと待ち望んでいた。
06	11月16日、17日の二日間奈良県立美術館の展覧会にて鑑賞を行った。ここでは唐古・鍵考古学ミュージアム、唐古・鍵遺跡に関する資料が設置され大々的に宣伝されていた。また、田原本町は磯城の里として挙げられていたほかの二町である川西町、三宅町とは違い「歴史のオーラが見えるまち」として大きなパンフレットが設置されていた。このパンフレットには田原本の年中行事、田原本の文化財に加え、磯城の里ウォークパンフレットとは別に、田原本町ガイドマップという町内を詳しく紹介するマップが載っていた。21か所ものスポットが紹介されそれぞれの魅力や重要文化財の指定などを紹介していた。今回のフィールドワークではすべての場所に立ち寄ることができなかったが、魅力を伝えるに値する観光場所が多く存在するまちであることが分かった。また、事前学習の一環として講義中に行った田原本ふるさとかるたで覚えた観光資源の数々を実際に見ることができた。
07	歴史の授業で習ってきた事とは別に、新たな知識も得られた。土器の種類や発掘方法等。地図帳を使った授業のようにただマップを見てそれぞれのポイントについて学ぶのではなく、実際に訪れてみて周りに風景や説明を聞くことの重要性を知った。現場実習では何が必要で、何が重要・ポイントなのかを考える必要がある。
08	唐古鍵遺跡はとても重要な素晴らしい文化財である。しかしまちには人通りが少なく、観光客らしき人も見当たらずあまり資源を活かせていないと感じた。このようなまちの活性化について。
09	役場に行って聞き取り調査をしたことで、地域政策の事により触れられた気がした。歴史の教科書でしか見る事のなかったような土器や埴輪などを見られたことは貴重だった。
10	田原本役場での対人聞き取り調査にて、「経験した中で、大変だった仕事は何か」と伺ったところ、隣の課の人間が育休をとって、その方の業務の引継ぎが大変だったとの返答を得た。ワークライフバランスを進めようとする動きが現代の中にある一方で、このような苦労があることを知った。労働形態を巡る改革とその問題を考えることは今までの労働経済学の講義と深くかかわっている。

## 調査報告

第7の2表 今回の活動の体験から、どのような発見があったか。ドキドキするようなことがあったか。

調査者番号	観察結果
01	今回の活動においては、唐古・鍵遺跡を訪れることができたのは、勿論、有意義なことであったが、田原本町役場で数々のお話を聞いたことが何よりも収穫であった。今後、私が社会人として、働いていく上でのイメージを良い意味で覆すようなお話も多々あり、期待が高まってきた。
02	今回の観察を通して、地面の舗装の状態が場所によって全く異なる事に強い興味を抱いた。基本はアスファルト舗装であったが、万行寺周辺の住宅地は砂利道のように舗装されており、考古学ミュージアムから田原本町役場への道の歩道はレンガで舗装されていた。田原本駅周辺は再びアスファルト舗装に戻ったが、寺社周辺は石畳舗装になっていた。
03	2ヶタ国道でもある国道24号線が、対向2車線という粗末な道路環境という事が不思議であった。2ヶタ国道である以上は、国の予算が使われているはずだが県道並みの道路状況だった。奈良市周辺は4車線になっているが、どこから対向2車線になっているのかを調べてみようと考えた。
04	総合政策課ではさまざまな事業に携わることができることを知った。将来、総合政策課のような仕事ができる職に就いてみたいと感化された。
05	田原本町役場で職員の方に話を聞き、地元以外の方が職場に半分ぐらいいると聞いて、必ずしも市役所を受験する際は、地元でなくてもチャンスがあるのだとわかって、少し安心した。(就職は今、自分が住んでいる大和高田市内では考えていない。) (引越すため)
06	今回の発見としては唐古・鍵考古学ミュージアムにおける展示方法である。床がガラス張りになっている展示方法、当時の風景を思い起こさせるような模型が特徴的だった。それらを比較的低価格で見学できるのはおどろいた。今回、急ぎ足での移動だったため十分な見学はできなかったのだが、道の駅が完成すればぜひもう一度訪れたい。普段、博物館や美術館を訪れることはなく、コモンズゼミでは貴重な体験をした。またこれらの機関を目にすることがあれば、利用してみたいと思う。
07	歴史の教科書に必ず出てくる遺跡を回れたのはドキドキした。教科書に載っていないようなことをミュージアムで聞けたので、為になった。公務員が実際何をしているのか知ることができて良かった。道中迷って、しっかり舗装されていない道を通ったが、決められた道よりもワクワクした。
08	石見駅周辺は昔ながらのまちという雰囲気がしていたが、大きな道に出た途端、飲食店や漫画喫茶などが立ち並びとても雰囲気が変わったことに驚いた。そしてよく観察しながら歩くと絵画土器モチーフにしたモニュメントやマンホールの絵などを見つめることができた。途中田畑は見られなかったが、唐古鍵遺跡ミュージアム付近には広大な田畑が広がっており、近くにミュージアムという現代的な建物が建てられているので少し不思議な感じがした。
09	唐古・鍵考古学ミュージアムでは、歴史の教科書でしか見るのなかったような土器や埴輪などを見られたことは貴重だった。
10	対人聞き取り調査で「楽しかった仕事」について質問した。それに対して前の職場で得たシステムエンジニアの技術・知識を生かして公務の無駄な

	作業を省くことができたとの回答を得た。ここに、現代の新たなキャリア構築の可能性を感じた。別の職場で得た知識を違う業界でも活かせる。別の仕事を経験していたからこそその強みというものが存在すると知った。
--	---

**第7の3表** 今回の活動で得られた知識、経験を今後のあなた自身の勉学にどう活かすか。

調査者番号	観察結果
01	今回の活動では、田原本町の現在に至るまでの歴史や現状をおよそ3時間で余すことなく知ることができたことは、中々ない機会であったので、よかった。この経験を糧に、今後、地域が抱える問題を考えていく上で、まずは、今回のように、現場に行き行って調査を行なっていくときに活かしていきたいと思った。
02	今回の課外活動を通して、田原本町は歴史的な趣を残しながらも現代的な暮らしに徐々に対応できている町だ、という印象を強く受けた。今後のフィールドワーク活動などに当たって、まちづくり活動の1つの参考すべき姿として今回の活動を利用していかれたらと考えている。
03	田原本町も平成の市町村合併を行わなかった地域である。ただ、この地域を歩いていて思ったのが、他の地域にあった工場などは見当たらず、税収はどこから得ているのかという事だ。聞き取りした人に聞いてみたが、明確な回答は得られなかった。
04	総合政策課ではさまざまな事業に携わることができることを知った。町役場ではどのような部署が、どのような仕事を行っているか調べてみたい。
05	地方公務員（市役所）志望であるため、今回の田原本町役場で職員の方に話を聞くことができ、就職活動の参考になった。しかし、他の地域を受験する際に、「なぜ公務員志望なのか」と「なぜ、この地域を志望するのか」は面接官に聞かれるだろう。こういった質問に落ち着いて正確に答える準備が必要だと感じた。
06	田原本での調査では、市内の魅力や考察のほかに役場の方にインタビューするという貴重な機会を与えていただいた。設定されていたテーマのほかに、実際に現場で働いておられる声を聴くことができた。チームワークを築き、協力して業務をすいこうするということの重要性を教えていただいた。今後どのような職種に就いたとしても通用する多くの知識を得られたので今後活かしていきたい。
07	今後はマップを見るだけでなく、実際に訪れてみて目で見て、実際に触れて感じてみる。公務員と関わったりする際はなるべく協力しようと思う。頼りすぎない。地図の見方、使い方をマスターしたと思うので、今後地図帳を使ったり出かけたりする際に役立てたい。町の財政だけでは全ての機能を賄うことは出来ないと感じたので、財政面での研究もさらに必要だと感じた。
08	田原本は遺跡や神社などがあるが、遠方から来た人には観光地としては物足りない印象を受けた。また、特別不便という訳では無いがこのままでは過疎化も進んでしまう気がする。このような地域にいかにして若者が来たいと思えるような街づくりを進めるかを考える必要があると感じた。

## 調査報告

09	役場の方に直接話を聞いて、名前だけでしか聞いたことのない課の仕事やこれまでどんなことをしてきたかを教えてもらえたり、今の職を選択した理由を聞いたり、将来を考えるにあたって良い経験になった。
10	今回の対人聞き取り調査にて知ることができた、転職による新たなキャリアの可能性について、これを特に女性の働き方に適用できないかと考えた。一般論として女性には、新卒から正社員として働いていても、育児などでパートなどの非正規労働者になるパターンがある。しかし、退職するまでに培ったものを別の職場で活かせることが出来ないかと思った。そうすれば、また正社員としての雇用を得ることが出来るのではないかと思いい、新たな働き方として今後の学習で考えていきたい。

## II 2019年1月24日の調査

### 8. 地点観察

#### 第8の1表 田原本町役場

調査者番号	観察結果
21	役場では様々な人が多くおり、町政の中心であると感じた。今後の就活でも公務員のイメージを膨らませて行きたい。
22	-
23	役場の建物は中央に広めの空間があり、端に事務の人達がいるデスクスペースがある。窮屈さは感じず、近代的なデザインでお金をかけていることがよくわかった。周囲は普通の住宅地であり公共施設が近くにあるのは便利であろう。訪問する市民はそれほど多くなかった。
24	田原本町の概要についてプリントが配られた。資料を見てみるととても詳しく書いており参考になった。
25	フォトコンテストのチラシと田原本町の統計資料をいただいた。どちらも配色が落ち着いておりとても見やすかった。役場は中央が広くなっており、行きたい課を見つけやすそうだと感じた。周囲には何軒か新しくおしゃれな家も建っていた。
26	-
27	フォトコンテストのチラシにのっていた桜と遺跡の写真がきれいだった。出入り口にかかるたて見たタワラモトンがいた。
28	-
29	駅から東へ進みすぐのところを所在した。外観・建物内共に綺麗で、施設内の快適さは役場の職員の方々によって保たれているのだなと感じた。タワラモトンやモニュメントなど、田原本町の特徴を感じさせるものが多々あった。
30	2限目に授業があり、電車の時間に間に合わなかったため、市役所前でグループメンバーと合流した。そのため、フォトコンテストの話は聞けなかった。

31	閑静な住宅街の中に建てられている。周囲の建物と比較すると外観は整えられており、それなりの広さがある。
32	田原本町役場の内部を観察し、部署が左右に分かれていることを学んだ。
33	徒歩での移動であったがいくまの道が狭く車通りが多く徒歩での移動は注意しないといけないと感じた。
34	役場の人からフォトコンテストの話聞いた。町役場に初めて行ったが、区役所等と比べるとその規模の大きさの違いが感じられた。
35	フォトコンテストは、唐古・鍵遺跡が史跡公園となったことを発端に、公園の魅力をアピールできる良い写真が欲しいということから始まった。
36	出欠を取り、役場の人のフォトコンテストの説明を聞いた。
37	資料を頂く。フォトコンテストの説明。
38	質問、フォトコンテストではどんなカメラを使ってもいいのか？ 答、良い。内観は綺麗になっており、静かだった。役場としての役割だけでなく、地域住民の憩いの場になっているであろうと考えられる。

第8の2表 唐古・鍵考古学ミュージアム(⑦)

調査者番号	観察結果
21	リニューアルオープンをしたらしく。綺麗な内装が目をついた。ボランティアの方は高齢の方ばかりで後継者育成について気になった。鍵遺跡について知識を深めることができた。特に動植物の展示が興味深く現代と変わらない生態系が既に確立されていることが分かった。
22	青垣生涯学習センターは、私が小学生の時に建設され、それ以降幾度となく利用させていただいている。特に併設されている図書館の自習スペースが素晴らしく、土日になると9:30の開館前に席を取るための列が出るほど良い空間である。さて、今回メインで観察した唐古・鍵考古学ミュージアムについてであるが、小学校4年生の時に学校の学外学習で訪れたことがある。一部、道の駅(①0)のほうに移されているものもあったが、大体は当時と同じ配置であった気がする。小学生のときは、土器等を見ても恥ずかしながら何も感じなかったが、大学生として見てみると、100年以上前の先人たちが同じこ田原本という土地で生活していたと思うと何とも言えない気持ちになった。また、弥生土器についても、当時のまま保存されている凄さに改めて気づき、その土器製作の技巧に感動を覚えた。近くに住んでいながら、日頃はなかなか来なかったため良い機会となった。
23	田畑の中に突然現れた大型の近代的な建築。建物全体がミュージアムかと思ったが、二階の一区画だけのようなだった。ミュージアムだけの建物を作った方がいいのではないかと思った。興味を持って訪れる人には楽しい展示であると思われるが、そうでない人には退屈に映るかもしれない。
24	昔の石器や土器などを観察した。当時の人々の暮らしに触れることができ良かった。
25	カルタに出てきた牛の埴輪が想像よりも大きくて驚いた。ボランティアの方の説明がとても丁寧でより楽しみながら展示物を見ることができた。また、ジオラマや地図から近くに川があることが田原本町に遺跡が多く、栄

## 調査報告

	えていた理由ではないかと推測することができた。
26	唐子・鍵考古学ミュージアムにて、縄文時代・弥生時代の遺跡を見学。外観は想像以上にきれいでおしゃれな感じだった。しかし、あまり掲示などがなく、通りかかった人などが入りにくい雰囲気だったと感じる。土器や種子・生物の一部（どの部分化は記載なし）などを見た。この時代にこんなものが作れたのかと感動した。個人的お気に入りには小さな人型埴輪がとてもかわいくて印象に残った。
27	外観も内装もすごく近代的でおしゃれだなという印象を受けた。何かのアートの美術館のようだった。
28	ミュージアムの中で、様々な土器や埴輪など、歴史的な遺産を観察した。またミュージアムの建物自体が独創的な建築物であった。
29	大きなコンクリート施設であり、最初外観だけではミュージアムとは思えなかったが、施設内は非常に綺麗で整備されていた。地域の方々の姿や若者はあまり見られなかった。展示室にはかつての環濠集落である唐子鍵遺跡の出土品が多く展示され歴史を視覚で感じられるワクワクする空間であった。小規模なため比較的スムーズにまわることが出来た。
30	唐古鍵遺跡はとても広かった。湯鉄鋼の容器を宝石箱とし、ヒスイなどを中に隠していた。土器には文様を細かく描いたものが多くみられる。
31	縄文時代や弥生時代の人々の文化や信仰していたもの、高度な技術の一端を土器や勾玉、埴輪など様々な物から学ぶことが出来た。また、建物自体には図書館や公民館など他の施設も入っている。
32	外見を観察し、近代的な作りであり、現代アートを取り入れていることを学んだ。
33	唐古・鍵遺跡は一つの集落だと思っていたが、纏向遺跡と同時期に発見されており、纏向遺跡との密接な関係があった可能性があることから非常に興味深いと思った。
34	田原本エリアの弥生時代の発掘物等を見学した。館内にはカフェが併設されているほか、くつろげる椅子も設置されておりゆっくりと展示を見ることができるよう工夫されていた。
35	唐古・鍵遺跡から出土した埴輪や土器などの実物資料と、説明ボードやガイドの方の説明を受けて、弥生時代の食や戦いといった環境、形や技、周辺にはどのような集落があったのかということ学ぶことが出来た。稲作が海を渡り、日本に広がり、村ができてきたという流れがよくわかった。
36	弥生時代の人々が食べていた生物や使っていた農具などが展示されていた。館内の人の説明を聞いた。休憩スペースや食堂などもあって、地域の人が利用していた。
37	説明してくださる方もいて勉強になる。資料関係が思ったよりも安価で手に入る。リニューアルオープンしたてで綺麗。
38	ミュージアムだけでなく、休憩スペースやカフェも中にあり、お洒落だった。展示スペースは暖色系の照明でライトアップされており、様々な種類の土器や農具や狩猟の道具などが展示されていた。また、展示物の中にとっても大きな土器があったが、どうやって作ったのだろうか。堅穴式住居の人々は、雨が降ったらどうしていたのだろうか。



第8の3表 津島神社(⑪)

調査者番号	観察結果
21	八幡大神などが祀られており、近くにお寺などもあるため、神仏習合の後が見られる。奈良でも仏教と神道が入り混じっており、独特の宗教観だと言える。
22	-
23	住宅地の中に現れる神社。周辺は細い道が多く車一台が通るのがやっつである。店が少なく観光地という雰囲気ではない。
24	立派な鳥居があった。神社そのものは新しかったのが印象的だ。
25	境内は広く、きれいに整備されていた。瓦屋根に白塗りの壁の古い家が周囲に何軒か建っていた。
26	-
27	案内板に、天治二年(1125)に建立されたとの情報が書いてあった。非常に由緒ある神社のようだ。
28	-
29	時間も押していたため内部までじっくりと見ることはできなかったが、本殿の外観と表札を観察した。日本における神仏習合の神である「牛頭天皇」を祭っていたことから、仏教徒のみならず神道の関係者も参拝していたのだろうと推測した。
30	天照大神、素戔鳴尊を祭っている神社。住宅街にいきなり神社があった。
31	閑静な住宅街の中に位置している。神社の奥の方には小さな公園が存在するが、神社にも公園にも人はいなかった。また、建てられていた看板により田原本が能の発祥地であることを学んだ。
32	-
33	街中にあり、わかりにくい立派な神社である。
34	近鉄田原本駅の近くに位置する。大きな神社であった。敷地内におみくじが結ばれていたことから初詣である程度の参拝者が来たことがうかがえる。七五三詣も行っているようだ。
35	立派な神社であった。行くまでの道のりに、集落に川が溢れて水が入らないようにする堤防があった。拝殿と本殿があった。
36	大きな鳥居があった。また、裏には遊具がたくさんあった。
37	公園がある。小さなお社もあった。大きめな神社だが人は常駐していないようだ。
38	社務所と本堂と小さな社があった。敷地内に小さな公園もあり、子供が遊んでいた。参拝すると不思議と心が落ち着いた。

第8の4表 浄照寺(⑩)

調査者番号	観察結果
21	浄土真宗のお寺であり、昔は堀などの防御もなされていたと考えられる。近くに地域特有の絵が描かれたマンホールがあり、情緒豊かな街並みであ

## 調査報告

	ると感じた。
22	-
23	津島神社の至近にある寺。雰囲気は津島神社とよく似ている。観光地というより地域に溶け込んだ寺という印象。本堂とそれ以外に2棟程度の建物あり。
24	立派なお寺だった。車が境内に入れるのは意外だった。
25	田原本町観光協会が絵図と町名の変遷表の立て看板を出していたので、昔の田原本町について少し知ることができた。また、御佛三十三カ所巡礼についての看板もあり、観光協会が力を入れて活動していることが分かった。
26	-
27	浄土真宗本願寺派の寺院だった。この辺りには浄土宗の寺が多いような気がした。
28	-
29	境内が広々としており、外壁だけでもその歴史の古さを体感した。葺の一部分だけ色が異なっており、改修されているようであった。浄土真宗の系譜を引く寺院であることから、昔から人々は阿弥陀如来を拝みに来たと思われ、地域に信仰の場を提供していたのかと考えた。
30	明治時代に使用していた書院が現存している。横に広い寺であり、鐘があった。周りの道は石畳で整備されていた。
31	津島神社と距離の近い寺。こちらにも人はおらず、閑散としていたが内部は汚れておらず、手入れは行われているようであった。また、浄照寺の張り紙から、子供の卒業式などのイベントにも使用されており地域とのつながりがあることが分かった。
32	-
33	非常に小さい神社であるが津島神社ともまた違いを短距離で感じることができるため良いと思う。
34	大きな寺であった。津島神社よりは新しいが、それでも1651年の創建で由緒ある寺である。奈良県の有形文化財に指定されている。
35	大きな岩と門があった。浄土真宗本願寺派の寺であり、本殿は慶安4年のものである。当時の江戸初期のものが多く残っており、特有の特徴をよく表している。真宗大規模寺院の典型として、奈良県有形文化財に指定されている。
36	津島神社のすぐそばにあった。
37	なぜか車が多く停まっていた。門が2つあり、自販機もあった。鐘があった。
38	大きい門があり、大きな釣鐘もあった。お墓もあったが、参拝する場所が見当たらなかった。

第8の5表 本誓寺(⑨)

調査者番号	観察結果
21	天皇との関係があった由緒あるお寺である。建物にも歴史があり、縁がある人も歴史に関わる人物であればそれが一層地域の歴史に深みを出し、見所ある街並みに昇華させているのだろう。
22	青垣生涯学習センターを早々に後にした我々は、一旦役場までの道に戻り、本誓寺に向かった。国道24号線は交通量が多いため注意が必要である。私が田原本町に住んでいるということもあり、土地勘があるので、地図上の位置まではすぐにたどり着くことができた。しかしながら、今回の目的である本誓寺を見つけることができず、駐車場の看板をカメラに収めてこの場所を後にした。
23	浄照寺のとなりに位置する。なぜとなりに別の寺があるのか歴史的背景が気になる。
24	隣同士にお寺があった。こちらのほうが大きい。
25	中は閉まっているようだったので、外から眺める形になった。本誓寺前の道はきちんと整備されておりきれいだった。
26	本誓寺にて、雰囲気はおちついていて、人がいなかった。なんの寺なのかイマイチ分かりづらく、インターネットで検索してもあまり情報が出てこなかった。特に見逃してしまいそうな場所になるので、もっと人々に知ってもらうような工夫が必要だと思った。
27	人気はないが、門の中に車が何台も止まっていた。人が集まる場となっていたのだろうか。
28	歴史的な寺であった。寺に駐車場などが付随していることが意外であると感じた。
29	江戸時代の田原本領主であった平野氏の菩提寺として、法事や弔いが行われてきたと考えられる。こちらも境内が広く感じられ、門の壮大さは圧倒的であった。直ぐ近くに平野氏陣屋跡が存在したが、時間の都合上そのまま通過した。
30	浄照寺のすぐ隣にある寺。阿弥陀三尊立像が御本尊である。境内には二代・九代領主の霊廟をはじめ由緒品がある。
31	浄照寺と距離の近い寺。内装は浄照寺とよく似ているが、本誓寺と比較するとかなり土地が狭く、こじんまりとした寺であるという印象を受けた。
32	本誓寺の入り口を観察し、京都のお寺と上部が似ていることを学んだ。
33	先に訪れた2社寺と近くそれぞれ個性があって面白いと思った。
34	浄照寺のすぐ隣に位置する。なんとなく建物が新しかったので火災や震災などが原因で再建されているのではないかと感じた。
35	鎌倉時代、正和5年に花園天皇の頼願所として、当初は八幡町につくられた。十一面観音や三十三観音などがあつた。
36	浄照寺のすぐそばにあった。津島神社と浄照寺とこの本誓寺は等間隔ぐらいの位置にあり、参拝客は分散していそうだった。
37	浄照寺の隣にある。境目がいまいちよく分からない。
38	入って右手にお地藏様が祀られていた。本堂の造りは比較的新しく、宮司

## 調査報告

	さんの家と一体化されていた。
--	----------------

第8の6表 平野氏陣屋跡(⑧)

調査者番号	観察結果
21	－
22	－
23	－
24	跡地だけだったので少しがっかりした。説明書きは充分だった。
25	役場の駐車場の隅にあり、見つけるのに時間がかかった。看板からはかつてかなり大きな陣屋があったことが分かった。
26	－
27	役場の駐車場の中に案内板のようなものがあった。地図で場所を確認したが最初はわからなかった。江戸時代には東西南北に数百メートル、周囲を堀と土塁に囲まれた大きな屋敷があったようだ。
28	－
29	－
30	－
31	－
32	－
33	－
34	－
35	－
36	－
37	－
38	－

第8の7表 鏡作神社(⑥)

調査者番号	観察結果
21	大きな鳥居が目を引いた。鏡作というだけあって鏡に由来する神社である。地名や場所に意味があることが地理の面白い所である。そういった面白さが歴史に深みを与えている。
22	本誓寺を後にした我々は、スーパーおくやまを通り過ぎ、ローソンの信号で右に曲がった。また、スーパーおくやまの近くでは、雑貨屋を見つけた。日頃車でこのあたりを移動している私はその存在を知らなかったため、非常に新鮮な気持ちになった。そして、鏡作神社に到着した我々は鳥居を中心に入口部分を撮影し、神社を後にした。
23	今回訪れた中では比較的大きな神社。100mほどの参道の奥に本殿がある。今回行った中では最も大きい寺社仏閣である。周りは学校があったりして比較的広めの土地を取れる施設が集まっていることがわかった。

24	参道からしっかりしていた。とても立派な神社だった。
25	平野氏陣屋跡からここに向かうまでに集合住宅があった。道はまっすぐではなく、不自然に曲がっているところもあった。通りがかったおじいさんから、神社にしては珍しく鐘つき堂があるという話を伺った。
26	鏡作神社にて、緑の中に綺麗な鳥居があり、とても落ち着く空間だった。鳥居の右側には鏡作神社の由緒が記してあったが、言葉の意味が難しくあまり理解できなかった。中にはヘビや鳥・象(?)が記された鮮やかな朱色のものもあった。会社の寄付の表示は〇〇ガラス、〇〇鏡会社などの文字が多いと感じた。
27	一見普通の神社だったが、ここは少し変わっていて神社にもかかわらず鐘つき堂があるという話を地元の人から聞いた。
28	木々に囲まれた神社であった。赤い大きな鳥居が特徴的なものであった。
29	赤い鳥居がすぐ目に飛び込んできた。本殿までの砂利道を仲間と共に歩いて楽しかった。昔鏡を制作していた神社で、今も美容関係者や美容品メーカーの方が参拝に来ると聞いた。特に女性は今や肌身離さず持ち歩いていることが多い鏡であるので少し親近感がわいた。
30	大きな道路に面した神社。今回訪れた寺社のなかで一番広い神社であったように感じた。近くにはスーパーがあった。
31	付近にある神社の中で最も大きい神社。建てられていた看板から、古代から江戸時代にかけて鏡作神社のあたりには鏡作師が住み、鏡池で身を清め鏡作りに励んでいたということを学んだ。
32	鏡作神社の拝殿が菟田野にある水分神社に似ていることを学んだ。
33	敷地面積が広いが、平日とあってか人少なく、神社も、質素で特に学ぶことはなかった。
34	大きな神社であった。敷地内には池があった。その名の通り鏡にまつわる神社であるようだ。
35	崇神天皇の頃から江戸時代まで、周辺には鏡作り師が住み、鏡池で身を清めて鏡作りに励むなど、鏡の神様を祀る由緒深い神社である。歴史街道の1つであった。境内は広かった。
36	この活動で見た中で一番大きな鳥居だった。参道も長かった。地域のスポーツチームに寄贈されたベンチが置いてあった。
37	なかなかの広さ。鳥居がとても目立つが、最初のイメージに比べて何もなかった。
38	赤い大きな鳥居が目をついた。境内は広く常用樹が生い茂っていた。しかし本堂は小さく社務所もこぢんまりとしていた。

第8の8表 安養寺(⑤)

調査者番号	観察結果
21	あまり時間がなく、すぐに立ち去ってしまったが、付近に中学校があり、有事の際には逃げ込めるようになっている。観光客が多く訪れることによって、防犯の効果は大きいと思われる。

## 調査報告

22	鏡作神社を出たのち、我々は堤防に出る1つ前の道を左に曲がった。ほとんど地元の人しか通らないこの道は、裏ルートであると勝手に解釈していたが、地図上でもその道筋を示してあったので、小松原先生のリサーチはさすがであると感じた。この道はたまに車が通るくらいの比較的安全な道である。そろそろ疲れも見えてきたが、歩みを緩めることなく安養寺まで辿り着いた。中学生の時、安養寺の前で羽を怪我して飛べなくなった鳩を見つけたので、その鳩を近くにある鳥を飼育されているお宅に運んだことがあった。あの鳩は今でも元気にやっているだろうか。鶴の恩返しは昔話として語り継がれ、今でも例え話をするとき等よく耳にするが、その鳩からの恩返しはあったのであろうか。いや、何もないのが本当の幸せなのかもしれない。現在の日本では、全国各地で災害が起こり、今でも大変な思いをされている方々がたくさんおられる。そう考えると、何事もなく日々無事に過ごさせていただいている今の日常に感謝しなければならないと心底思う。安養寺に関しては、中に入らせていただいていた良いのかよくわからなかったため、外から写真を撮らせていただくだけに留めておいた。
23	明確な特徴はあまり見出せない寺という印象。近くには運河らしきものが流れていた。
24	阿弥陀如来像があると書いてあった。実物は見るができなかった。
25	ここに向かう途中の道は閑静な住宅街で、人通りはほとんどなかった。
26	安養寺にて、門の横には重要文化財に指定されている阿弥陀如来立像が祭られていると記されていた。道路に面している門から中をのぞくと、正面に本堂があり、右にお墓が山のように密集して積まれていたため、その光景に少し驚いた。重要文化財に指定されているものが祭られているにもかかわらず、やはり人は少なかった。
27	大きな屋根と提灯が特徴的なお寺だった。この辺りまでの道のりで、田原本の特徴的なマンホールを何度も見かけた。
28	本誓寺と同様に歴史を感じる寺であった。徒歩圏に2つの寺があることが興味深いものであった。
29	大きな提灯が目立つ、住宅地内に所在した大きな寺であった。寺内に仏師の名匠である快慶が制作した阿弥陀如来立像が安置されていると案内があった。時間の都合上見ることはできなかったが、右側にある案内板で像についての説明があり知見を深めた。
30	向かう途中の下ツ道沿いには、古くからの平屋と、新しそうな住宅が3:2くらいの割合で並んでいた。細い道にもかかわらず、車の往来は多く、歩道と車道の区別もなく危険だと思った。
31	道の角の方にある寺。他の寺と比較すると小さな寺であり、数台の石仏が祀られていた。看板によると、安置されている石仏の中には約400年前から存在するものもあるとのことである。
32	安養寺の門と石碑を観察し、このお寺の歴史を感じた。
33	人通りが全くなく、特に学ぶことがなかった。
34	国の重要文化財に指定されている阿弥陀如来立像が安置されている。
35	寛永10年につくられた。江戸時代中頃に洪水にあり、今の位置に移ったとされている。あまり人はおらず、静かで厳格な雰囲気神社であった。



36	本殿に大きな赤い提灯が置いてあった。
37	目の前にある提灯が印象的。寺の屋根がかなり急峻で変わっていると感じた。
38	敷地は非常に狭く大きな赤ちょうちんが吊り下げてあった。

第8の9表 鍵の蛇巻き(④)

調査者番号	観察結果
21	無形文化財として残っており、民俗学と関連している。蛇と言えばあまり良くないイメージがあるが、子供の成長と関連して風習があったのは興味深かった。
22	安養寺を後にし、堤防沿いをずっと歩いていくと右側に私の母校である田原本町立北中学校が見えてくる。当時野球部であった私はグラウンドを頻繁に利用していたので、堤防からの眺めではあるが非常に懐かしい気持ちになった。この堤防の道は幅が狭い割に交通量がやや多いので歩行者も注意が必要な場所である。最近では悲しいことに向こう見ずな運転をする輩が我々の地域にも増えてきた。さて、鍵の蛇巻のポイントは我が母校の正門に位置している。なかなかこの場所で立ち止まってじっくり観察することもないので、めずらしく神秘的な面持ちになっていたような気がする。
23	無形の文化財ということで看板のみが立っていた。この場所とどんな関連があるのかがわかりづらかった。
24	藁がとてもアーティスティックだった。
25	道路わきにあり、車通りもそれまでに通ってきた道と比べて多かった。網はほとんど外れかかっていた。
26	鍵の蛇巻きにて、車の通る道路の真横に一角スペースを作られていて、そこに木が立っていた。いかにも地元根付いている文化という感じで、実際に鍵の蛇巻きが行われる際のお祭りにも行ってみたい、参加してみたいと思った。私は聞いたことがなかったが、有名な行事なのだろうか。
27	毎年六月に男子の成人を祝う祭りと関連のあるもので、文化庁から無形の民俗文化財に指定されているようだが、かるたで見て想像していたものと少し違っていた。
28	閑静な場所であった。
29	あいにくたれた状態で木に巻き付いていたため写真には映えなかったが、男子の成人を祝う節句行事として無形文化財に指定されている、地域に密接にかかわるポイントの一つであると確信した。
30	川沿いの北中を少し超えたところにあった。道のど真ん中にあり、今回の立ち寄り地点ではなければ気づかなかったと思う。
31	正直よく見なければ素通りしてしまうほど存在感が無かった。鍵の蛇巻について説明されている看板が無ければ見逃していただろう。看板から、今里の蛇巻きと共に記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財として文化庁より指定されているということを学んだ。
32	蛇巻きを観察して、自然に合うようにわらで作られていることを学んだ。

## 調査報告

33	街の中に歴史の文化の遺産があり、田原本の探索マップなど魅力を伝えるのなら適切だと思う。
34	少し荒れていたため、正直見にくかった。糞虫のような形の、藁で作った蛇型の網が木に吊られていた。豊作祈願・男子の成人を祝うものであるようだ。
35	蛇巻きとは、農作物の豊作を祈ると共に、男の子の成人を祝う節句行事である。藁で作った蛇形のを17歳の少年が担ぎ、ほかの少年たちと村中を練り歩く。降り籠とも言われる。記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財として指定されている。
36	木の目印が置いてあった。このあたりから残り時間に余裕が無くなってきて急いで歩き始めた。
37	よく分からない物体であったが、説明を読んでも理解が難しかった。地元伝統行事であることは分かった。
38	道端にぼつんとあり注意していないと見落としてしまう程だった。木に藁のようなものが絡みついていた。

## 第8の10表 唐古・鍵遺跡(①)

調査者番号	観察結果
21	広大な土地を有しており、古代の集落の大きさが伺える。大きな櫓が立っており、防御施設が併設されていたことが分かる。公園としての役割もあり、今も昔も今も憩いの場である。
22	寺川から杵築神社のほうに抜け、次は小学校時代の通学路を使い唐古・鍵遺跡へと向かった。田原本町の中部から北部にかけて歩いているだけなのにかなり疲れていた。車で移動したい、車で移動したいと念仏のように唱えだしたのもこの頃。すぐそこに自宅があるのに、反則技を使わなかった私を褒めたい。そうこうしているうちに、唐古・鍵遺跡に到着した。この遺跡は日本史の教科書にも載っているくらい有名な史跡なので、日本史選択の友人に自宅の位置を紹介するときは、よく使うポイントである。軽く史跡公園を散策した後、道の駅レスティの2階で疲れた身体を癒していた。
23	－
24	－
25	周りにささぎるものがなく、すぐに見つけることができた。近くに道の駅があるものの、他に楽しむことができることはないように思った。
26	唐古・鍵遺跡にて、とてもだだっ広い敷地が広がっていて、ところどころに人がいた。視界が開けている中に、復元楼閣が立っており、遠くからでも存在感があった。復元楼閣自身はデザインなどが現代チックで、思っていたものと違った。レスティ唐古・鍵にも行って、有名だと言われている食パン“極”を購入した。他にも置いてある土産物を見て回った。
27	屋根の四方から出ているくると巻いた飾りのようなものが他にない特徴的な遺跡だった。
28	歴史を感じる唐古・鍵遺跡と最近できたばかりであるレスティ唐古・鍵が

	存在し、歴史と現代の療法を感じる事ができた。
29	-
30	-
31	-
32	唐古・鍵遺跡を観察して、唐古池を中心に広がっていることを学んだ。
33	-
34	-
35	-
36	平城宮跡と同じぐらい広く感じた。時間があればゆっくり散歩してみたい。
37	時間の問題もあり、しっかりとは見れず。
38	だだっ広い広場の中心にぽつんと高床式の矢倉のようなものが建っていた。他にもモニュメントのようなものがちらほらあった。

第8の11表 今里杵築神社(②)

調査者番号	観察結果
21	-
22	その後、私が中学校に通っていた道を通って今里の杵築神社に向かった。私の地元のを大学の友人と歩くのは、本当に不思議な感覚であった。また地元過ぎるが故に、今は近所のおばちゃんに見つかりたくないという気持ちも強かった。ただその心配は杞憂に終わり、誰にも会わなかった。今里の蛇巻は、まさに私が幼稚園から高校1年生まで参加していた行事である。藁で編んだ蛇を今里の若者達が担ぎ、村中を一軒一軒訪問して回るといふかなりハードな行事である。また、蛇巻はいつも梅雨である6月の第1日曜日に行われるのであるが、必ずと言っていいほど晴れるのがこの行事の不思議なところである。私も先ほど申し上げたように、約10年間参加したが雨に見舞われた経験は1度もなかった。やはり神様は実在されていると心から感じたのもこの行事である。
23	今里の浜の近くにある神社。普通の地域の氏神として機能している神社であると思われ、観光地という雰囲気ではなかった。
24	非常に小さい神社であった。
25	鍵の蛇巻きと同じように6月に今里の蛇巻きを行うらしい。あまり広くはなく、隣にはお寺があった。
26	今里杵築神社にて、ここは上記の鍵の蛇巻きと同時に、今里の蛇巻きとして蛇巻きが行われる場所のようだった。ここでは蛇巻きされる木は境内の中であった。蛇巻きがあると知っていても、どこにあるのか分かりにくかったので、もっと分かりやすくする工夫(案内板など)が必要なのではないかと思った。
27	-
28	寺と同様に、この徒歩圏に寺や神社が多くあることが興味深かった。

## 調査報告

29	比較的小さな神社であり、むしろ今里の蛇巻きの方が存在感があった。かつての隣のムラである鍵の蛇巻きと共にこちらも無形文化財として守られているエリアだと分かった。
30	今里の蛇巻きがあった。神社自体は狭く、鳥居なども見受けられなかった。隣にあるはずの今里の浜は見つけられなかった。
31	他の神社とは少し離れたところに位置する神社。これまでの寺や神社ではその場所を解説する看板が立てられていたが、今里杵築神社には建てられていない。付近に今里の蛇巻が存在し、そちらには看板が立てられていた。
32	杵築神社を観察して、拝殿の作りが簡易であることを学んだ。
33	神社としての説明もなくどういう神社かがわからないので観光には向いてないと思った。
34	－
35	鍵の蛇巻きと同じく民俗文化財に指定されている今里の蛇巻があった。榎原ではこれらの行事がとても一般的であるのだということがわかった。
36	－
37	－
38	－

### 第8の12表 今里の浜(③)

調査者番号	観察結果
21	時間厳守のため早々に立ち去った。周辺は住宅街であり、生活範囲があまり変わっていないことが伺える。
22	その後、私が中学校に通っていた道を通して今里の杵築神社に向かった。私の地元の道を大学の友人と歩くのは、本当に不思議な感覚であった。また地元過ぎるが故に、今は近所のおばちゃんに見つかりたくないという気持ちも強かった。ただその心配は杞憂に終わり、誰にも会わなかった。今里の蛇巻は、まさに私が幼稚園から高校1年生まで参加していた行事である。藁で編んだ蛇を今里の若者達が担ぎ、村中を一軒一軒訪問して回るといふかなりハードな行事である。また、蛇巻はいつも梅雨である6月の第1日曜日に行われるのであるが、必ずと言っていいほど晴れるのがこの行事の不思議なところである。私も先ほど申し上げたように、約10年間参加したが雨に見舞われた経験は1度もなかった。やはり神様は実在していると心から感じたのもこの行事である。
23	水路のような場所があり、そこが今里の浜とみられる。名前から住宅街に突然砂浜が現れるのかと思ったがそうではなかったようだ。港のような位置付けで古代の時代には舟の発着が行われていたのであろうと想像された。
24	少しだけ面影を感じた。しかしコンクリートの防波堤だったので想像力を使った。
25	説明書きの看板から、今はコンクリートで整備されているがかつては船着き場であったことが分かった。

26	今里の浜にて、江戸時代の港であったため船着き場で、船問屋が立ち並び、外交として非常に栄えていたという風に事前調べで調べていったが、想像以上にひっそりとしたたずまいで、自もに住んでいる人でも知らない人もいるのではないかと思うくらいだった。
27	昔この辺りは水上輸送の拠点として重要な役割を持っていたようだった。
28	自然を感じることができると環境であった。船着場であったということがあまり感じられなかった。
29	下ッ道（中街道）で結ばれた物資の集散地として栄えたとの記述があった。浜というよりはため池のような場所であったが、水運を利用していたことは推測できた。ここから町を活性化させていったのだと考えられる場所であった。
30	-
31	浜という文字から、広い水場を想像していたが実際は川の形であったというのが意外な点であり、川のような形であっても浜と呼ぶことを学んだ。また、江戸時代にはこの浜に荷揚場や土蔵があったということも学んだ。
32	今里の浜を観察して、ごみの多さに驚き、町の人々による清掃意識、清掃活動の不十分さを感じた。
33	非常にわかりにくく、どういうところが全く分からなかった。
34	-
35	明治頃までは大和川船運の船着場であった。どこが浜なのかよくわからなかった。
36	ケータイの地図で調べたものの、場所が以前よりもわかりにくくなっていく、時間の関係で見つけることができなかった。
37	グーグルマップで調べても出てこないのは問題だと思う。名所にするならば登録しておくべき。既存のマップだけでは分からない。跡形もなさすぎて。
38	田んぼの真ん中に突然現れた。江戸時代の港ということだったが今はその面影は全く無く、正直どこが今里の浜なのかよく分からなかった。

第8の13表 自分の勉学を進める上で参考やヒントになったこと

調査者番号	観察結果
21	田原本町ではお寺や神社が多いことが分かった。奈良の市町村ではよく見られることではあるが、駅周辺で短時間のうちに周ることが可能である。国際観光論などで習ったように名所をまわりやすいのは利点である。しかし住宅街にあることが観光客と地元住民との軋轢を生みかねない。お店も少なく観光地として盛り上げていくには工夫が必要であるように思われた。若い人は多かったものの、それが一層少なくなっていくことを考えれば、対策は必要であると感じた。大学で学んだことを大学の外でも活かしたいと思う。
22	本当は①津島神社なども回りたかったが、ゴール地点の石見駅から見て反対方向にあることもあり今回は断念した。また夏に祇園祭りで行くのでその時に歩くつもりである。また、役場では近々導入予定の「飛鳥ナンバー」

## 調査報告

	が宣伝されていた。田原本町は飛鳥ナンバーの該当地域なので、導入されたらすぐにそれに变えたいと思った。田原本町は周りを市に囲まれた街なので、今はどうしても24号線や近鉄電車などにおいて、通過点になってしまいう悲しい現実がある。しかしながら、自分の育った街なので、少しでも地域に貢献していけたら良いと改めて感じた。
23	はるか古代に作られた遺構を基にして街が形作られているということ。また、駅前の商店街が衰退し国道沿いにチェーン店等集積していることから車社会となっていること。平坦な道が多く住むのには楽そうであり、そういった面では山沿いのニュータウンより未来は明るいかなという印象がある。ただし、若者の遊び場の場が少なく見受けられ、外に出て行ってしまいう可能性も浮き彫りになったように思えた。
24	自分の足で歩くことが大切だとわかった。
25	今まで資料館や博物館に行っても1人で見るだけで終わっていたが、今回ボランティアの方のお話を聞いてより詳しいことを知ることや興味を持つことができたので、そういった機会があれば積極的に活用したいと思った。今回は初めて行く場所だったので、事前に配布されていた地図を見ても道がわからず迷い、時間をロスしてしまった。自分でさらに拡大されて、目印も書かれているような地図を用意していたらもっと時間に余裕をもって行動できていたのではないかと思ったため、次回以降フィールドワークで言ったことのない場所に行く場合は、自分の使いやすい地図を準備しようと思った。
26	田原本には役場に用事があり何度か来たことがあるが、こんなに狭い範囲にたくさんの文化の見られる遺跡や建造物、自然などがあり、非常に驚いた。行く場所行く場所で、歩いてすぐのところには何かしらの発見があった。しかし、実際にその場所にあると知っていても見つけにくかったり、普段生活していたり、そばを通るだけでは、気づかずに通り過ぎてしまいうようなものばかりだった。今回の散策で一番感じたことは、意外といろんな場所に文化や歴史を学べるころはあり、それが知られていないことが問題であるということだった。いつもなにかを学ぼうと足を運ぶ場所は、有名なものがあったり、人が多い場所であったりということを選んでいったが、何も無いと思っている場所に足を運び、何かを発見することも大切であり、きっと自分としても面白いのではないかと思った。
27	田原本町のいたるところで、唐古鍵遺跡をモチーフにした特徴的なマンホールを見かけた。その街の特徴はいろいろなところに表れているのだなと感じた。
28	今回、田原本を実際に訪れてみた結果、一番興味深いと思った点は、神社と寺の数である。この徒歩圏内の地域に神社や寺が複数あるという点がとくに驚く点であった。また、唐古・鍵遺跡やミュージアムを観察し、歴史についての理解も深めることができた。上記で述べたように、神社や寺が複数存在し、唐古・鍵遺跡やミュージアムに歴史的な遺産が数多くあったことを考慮すると、田原本は歴史的にも重要な町であったことが感じられた。インターネットや参考文献を活用するだけでなく、実際に研究している場所に足を運ぶことで、新たな発見と出会い、新たな問題意識が生まれるという点が今回参考になった。
29	冬季は長時間歩くので逆に防寒しすぎると暑い。スムーズに回れるよう予



	<p>め地図を用意したり確認しておくのが良い。同グループ中の自分を含め3人でしか行動を共にできなかったため、グループワークの重要性はあまり感じなかった。再度訪れる際は、もっとじっくり回りたい。</p>
30	<p>今回は、役場からスタートしたため、当初決めていたコースと違う順番に回ったため、すべての地点に立ち寄ることができなかった。時間の都合上、私たちの班は唐古鍵遺跡には立ち寄らなかったが、石見駅に到着したのは16:00頃だったため、回っていても間に合ったかもしれないと感じた。時間配分は重要であると感じた。立ち寄り地点以外にも、田原本町は歴史の残る町並みで、古くからの商店や家屋が多くみられた。</p>
31	<p>私は、今回田原本を歩くことで実際に学んだことがいくつかあります。まずは、町を歩く人が少ないということが挙げられます。住宅は多く立ち並んでいるものの、実際に田原本町を歩いていてすれ違った人は少なく、また神社、寺に人がいないということが多かったため人口はそれほど多くないのだということを実感しました。また、住宅街が多いのに対してスーパーの数が少ないというのも気になった点の一つです。閑静な住宅街ではあるものの、日常生活には少し不便であるように感じます。また、もう一つ学んだことを挙げると田原本町には水路が多いということです。水路の幅はまちまちで、広いものから気づかないような細いものまで様々な物があり、昔には田原本町が浜として利用されていたという過去にも納得します。また、田原本町には大きな川が流れており、加えて大きな池があるという点からも田原本町は水の町と言えるのではないのでしょうか。私は、今回の学外学習活動において、田原本町の人口や建設物の特徴、町全体において水路が多く通っているという特色を学ぶことが出来ました。これらの学習内容は、私が今後田原本町又はその地域について学習及び調査を行う際に役立てていこうと考えています。</p>
32	<p>子どもから老人まで、世代を問わず住みやすい町をつくるという私の地域復興のテーマに、奈良の歴史的遺産を利用したウォーキングツアーを実施することで、一歩近づけるのではないかと思った。今回のウォーキングを通して、歴史的遺産と近代アート、豊かな自然を組み合わせ、一つの町に共存させることができれば、私の掲げる地域復興を達成できるのではないかと気づいた。</p>
33	<p>地点のポイントでもなにを観察したらいいか全くわからなくどういう意図かが全く分からなかった。</p>
34	<p>集落のすぐ内側に位置する小さな神社。周辺には昔からある、川の氾濫から集落を守るための石造りの堤防がある。しっかりとものを観察することで見えてくるものがある。当時から残っている石の堤防など面白いものが見られた。また、唐古・鍵考古学ミュージアムの見学は現在私が受講しているミュージアム論の勉強において館内の設備や展示方法といった点で参考になるものであった。</p>
35	<p>それぞれの場所に設置してある説明書きなど。他の場所との関連性などが理解出来た。</p>
36	<p>実際に歩いてみて、京都の四条通などと少し近い雰囲気を感じた。また、知らない人に2回ほど声をかけられて世間話をした。私の住んでいる地域ではめったに無いことなので貴重な体験だったと思う。今回は前回の高の原より時間的に余裕が無く、歩いた距離も前回よりかなり長く感じた。行</p>

## 調査報告

	き止まりや狭い道が多いうえ、車がよく通っていたので、よく気をつけて歩かないといけない場所だった。
37	各箇所、時間の記録を忘れたためなし。事前のゼミで学んだように、傾斜はあまりなく、大きな用水路のような（下水道?）ものが多かった。古い家と新しい家が混在していると感じた。大通りから外れると途端に道が狭くなる。1車線が多い。なぜそこに、というところにあるカフェや雑貨。なかなか個性豊かな、行ってみたいくなる佇まい。ミュージアムでは客の出入りに関するお話を聞いた。やはり展示が一定しているせいもあり、出入りが下がっていくのが悩みの種であるらしい。特別展も基本年に2回おこなっているようだが、集客につながっていないのが事実のようだ。複合施設なので図書館と連携することもできるだろうが、難しい問題だと思う。
38	大きなビルや建物がなく、道も細く危険な場所が多かった。しかし比較的新しい住宅が多く、もしかしたら若者を支援する政策などを行っているのか、と感じた。産業立地的にはやはり駅周辺に施設が集まっていた。

## 9. 田原本町役場から唐古・鍵考古学ミュージアムまでの移動中における観察

第9の1表 徒歩移動中に眺められる景観で、興味のある地点とその内容

調査者番号	観察結果
22	国道24号線の東側の道を、ミュージアムに向かって歩いていくと右側に雑貨屋があった。田原本に住んで約20年になる私だが、そのお店の存在は知らなかった。また機会があれば立ち寄ってみようと思う。
23	田畑が多く、大通り沿いにチェーン店の立地が見られる典型的ロードサイド郊外といった印象。
28	独創的な建物であったが、景観を損ねるものではなかった。
29	下ツ道は道路が特別に舗装され、景観が守られているように感じた。民家は木造の家が多く、古さが目立つところもあったが景観の一部と化しているのが良かった。
32	唐古・鍵考古学ミュージアムに移動する際に、周辺に広大な土地があることが分かった。
33	景色は田んぼが多く殺風景であったが、天気がいいと山が綺麗であると思う。
35	池のようなものがあった。ススキなど自然豊かな景色が見られた。
37	田原本生涯学習センターは外観とは裏腹に館内は新しく、きれいである。カフェなどもあり、特別な目的が特になくとも気軽に来れるように感じた。奈良県の図書情報館にイメージとしては似ているなどと思った。

第9の2表 交通上の危険箇所、道路渋滞など、学習のための移動に際して、注意喚起の必要な場所とその内容

調査者番号	観察結果
22	田原本町役場から国道24号線を渡る際に気を付けなければならないと思った。特に調査を行った午後は交通量もやや多く安全確認をした上での行動は必須だと思った。
23	細い道が多く見られる。
28	歩道などを通る自転車が危険であった。
29	下ツ道は狭く2車両分しか通れない道幅であったが、スピードを出し過ぎ去る車やバイクが見られたので注意して運転してほしい。パンフレットなどを見ながら歩くと接触の恐れがあるため注意する必要がある。
32	歩道内に段差があったので、転倒しないように気を付ける必要があった。
33	歩道が狭く車通りが多いと感じた。
35	道路が少し狭い箇所が数点あったため、大勢の移動は気をつける必要がある。また、ミュージアムのすぐ前の信号は少し変わるのが短かったので、信号を渡る際に注意が必要である。
37	役場からは大通りを歩いたため危険は少なかったように思う。ただし、周囲に建物などが少ないため、人通りの少なさは頭に入れておくべきだろう。大通りは車も多いため、交通マナーには留意を。

第9の3表(1) 学習の場として利用する場合に、学生が予め準備しておくべきこと

調査者番号	観察結果
22	ある程度日本史の素養があることは重要かもしれない。個人で行く場合は入館料100円(大学生)が必要。体温調節のしやすい服装を着用することは大事である。
23	遺跡等は突然現れるものであるため事前に知識を頭の中に入れておくことが重要であろう。マップや遺跡のデータなど。
28	-
29	目的地までの詳細な地図
32	景色を撮るためのカメラ
33	看板が少なくわかりにくいのでマップは必須であると思う。
35	唐古・鍵遺跡とはどういうものかを知っておくと良い。駅などからは少し離れているので、水分等は準備しておくと思う。
37	大通りから外れると一瞬にして迷路になる。しっかりとした地図やルートの予習を推奨する。ミュージアムは遺跡に由来する時代も説明されており、関連資料も売られている。何を学びたいか焦点を絞っておくとより深い学びが得られるのではないだろうか。

## 調査報告

### 第9の3表(2) 移動中の装備としてあったらよいと考えられるもの

調査者番号	観察結果
22	-
23	-
28	-
29	折りたたみ傘などの雨具
32	ヒールなどでは転倒のリスクが高いため、スポーツシューズ
33	-
35	-
37	-

### 第9の3表(3) 移動中に安全にくつろぐための留意点

調査者番号	観察結果
22	-
23	-
28	-
29	時間配分を意識すること
32	常に自転車などが来ていないかの注意喚起を行うこと。
33	-
35	-
37	-

## 10. 唐古・鍵考古学ミュージアムでの現地体験観察

第10の1表 ここでの見学によって田原本町に関してどのような興味深い知見が得られたか。

調査者番号	観察結果
22	魚の骨（コイやドジョウ等）が展示されていたが、あの小さな骨から魚の種類や生息していた時期までよくわかるなど感じた。小学校時代に来たときのことを話すと、ご理解いただけたので、そこそこ古い人ではないかと感じた。
23	展示品に対する説明は適切な量に見える。カラーが多様され見やすい。模型も詳細まで再現されているように思える。木を倒す方法を写したビデオがシユールであった。
28	歴史を多く感じることができる環境であった。実際に歴史的遺産を見ることで理解が深まった。
29	主に史跡や寺院の案内版には木製の看板が使われており、風土と合ったデザインで製作されていた。このような些細な気配りで町全体の風土が保た

	れているのだと考える。ミュージアム内で、犬が土器と戯れている展示が見られ、最初犬の遊び道具なのかと考えたが、説明を聞き犬の噛んだ歯形がついている土器の展示であると知ることが出来た。
32	大昔の農具などが展示されていた。展示物についての説明、翡翠などは輝きを保っていることが分かった。
33	唐古・鍵遺跡と同時期に発見された纏向遺跡と密接な関係である可能性が高いことは遺跡の発見でわかるのは興味深いものだと思う。
35	唐古・鍵遺跡から出土した土器や勾玉、埴輪などとそれぞれに設置してある説明ボード、ガイドの方の解説によって、弥生時代はどのような暮らしを行っていて、土器などの美術品にはどのような技、形があったのかなどを理解することができた。
37	絵画土器の大半が出土した、というお話に大変驚いた。日本全国に遺跡は多いからこそ、同じ奈良県民として誇らしく思う。

第10の2表 案内板などの設置状況と説明文は適切、わかりやすかったか。

調査者番号	観察結果
22	一目見ただけで、何の説明をしているのかがよくわかった。しかし、私には昔から田原本町に住んでいるというバックグラウンドがあるので、その説明だけで理解できたのかどうかは正直なところよくわからない。物腰の柔らかい丁寧な方々ばかりだった印象を受けた。
23	パンフレットは、シンプルであったが特徴がないとも言えるので遺跡に興味のない人にはつまらないものだと思う。
28	透明度の高いガラスを採用するなど、が見えやすい環境になっていた。田原本らしいミュージアムであった。
29	町役場の職員の方々が快く挨拶をしてくれた。田原本駅前の小店の店主の方も大勢の私たち大学生らににこやかにしてくれていたので、優しさあふれる街でもあったと感じた。大きなコンクリート施設であり、一見ではミュージアムとは思えなかった。館内は整備され綺麗であった。職員の方は優しく案内してくださった。スタッフの方が案内してくれたが、自分一人で行く際は館内の案内が不十分であると感じたため、大々的に博物館であることを示すのが良いと感じた。
32	一部外国語表記がないものがあった。一回のカフェを学習の整理のために利用したが、接客はおおむね満足できるものだった。
33	施設の人も丁寧に説明して下さってわかりやすかった。
35	案内ボードなどは少ないように感じ、次にどこへ行けば良いかがわかりにくいところがあった。とても丁寧に対応して頂いた。
37	展示は見やすく、端的でわかりやすい。再現がやたらとなく、よかった。付け加えるならばその時代の人が食べていたものの化石展示に関し、意図が汲みにくかったこと、村再現模型のサイドにある生き物の説明引き出しが分かりにくかった。受付の方が質問に真摯に答えてくださったのがとても良かった。

## 調査報告

第10の3表 町内の店舗で販売の商品にはこの遺跡に因んだものがあったか。また、受け入れられ易いものだったか。

調査者番号	観察結果
22	展示内容はもちろん、テーマや地域性に合致したもののばかりであった。1階にあるカフェでは、トンカツを使った料理が数多く出品されており、田原本と豚とを組み合わせた「たわらもトン」をモチーフにしているのではないかと感じた。
23	弥生時代に栄華を極めたこの地域に即した展示内容だった。食堂は利用しなかったため不明。
28	-
29	田原本は古き良き町であるが、町の中のカフェや飲食店は洒落た外観をしていた。メニュー表を一目見ると、田原本の食材を使ったメニューもあった。木製の展示物や案内板なども、唐子鍵のモチーフが使われていたため、大いに適合していたと考える。
32	展示物は地域性と適合していた。メニュー表には、現地特産品を使用しているなどの情報は記載されていなかった。
33	昔と今との比較があり非常に適合していた。
35	奈良盆地周辺とどのような交流があったのか、近畿地方との関係性などの展示がしてあった。奈良盆地に隣接する地域の土器が多くあり、地域と合致していた。
37	地域の遺跡を基に時代の暮らしも取り上げられている。メニューをしっかりと見ているが、確認する限りでは独自メニューはなさげであった。しかし、あまり地域色を出しても引かれると思うので現行でも良いのではと思う。

第11の4表 この活動で得られた知見は、今までのあなたの勉学とどのように関連するか。

調査者番号	観察結果
22	高校時代に日本史を選択していたわけではないが、少なくとも中学生のときに歴史を学ぶ際に役に立ったのは事実である。私は畝傍高校出身なのだが、畝傍高校は大和三山に囲まれ、藤原京跡も近くにあるなど、それにしても非常に歴史的に凄い土地で少年から青年時代を過ごしてきたんだと改めて感じた。
23	古代の遺跡についての知識は、センター試験での勉強以来触れていなかったのだから覚えている部分が多かった。土器や鉄器など聞き覚えのある品々が多く展示されていた。
28	歴史の講義などとの関連性が感じられた。
29	奈良市内を飛び出し、日本の起源の地ともいえる場所へ仲間たちと行ったことが良い経験になったと感じる。弥生時代の暮らしや土器の特徴、奈良の発展を知ることが出来たので、知識として蓄えてゆきたい。グループワークに関しては、メンバーのまとまりがなかったように思われるので、しっかりと事前に相談し計画を練ってゆきたいと考える。塾で日本史を教



	える機会もあるので、その際活用することや、他の遺跡を訪れた際その遺跡との関りについて分析する際に役立てようとする。
32	地域をどうデザインするかに関連していた。
33	今までの自分の勉学にはあまり当てはまらないと思うがしいていうなら地域の町おこしの分野に関連があるとおもった。
35	考古学の講義と関連している。
37	ゼミで奈良に関する様々なことを勉強してきた。また、かるたにて名前だけ理解した場所を実際に歩き、納得した部分もあり、田原本の特徴を体感できたと思う。

第10の5表 この活動の体験から、どのような発見があったか。ドキドキするようなことがあったか。

調査者番号	観察結果
22	小学校のときに見た印象とはまた違うものを感じた。昔の人々が土器などの道具を作り上げ、生活していたことも凄いが、その時代のものがかなり良い保存状態で出土しているのは驚くべきことであると思う。田原本町立北小学校を建て替える際に、私は小学校に在籍していたのだが、土器を掘り起こす学習をしたことを、久しぶりにこの空間を訪れ思いだした。
23	かつては日本の中心だった場所が一千年以上経つとさすがにその時代の繁栄を維持することはできないんだなあと感じた。しかし、一方ではその時代の名残の環濠が普通の川となって流れていたり、街の中に太古の時代のヒントが隠れていることも分かった。
28	実際に見ることで歴史を感じる事ができた。
29	田原本へ来るのは初めてで、奈良市内やほかの地域とそんなに変わりはないのではないかと考えていたが、その地にしかない史跡、寺院などを見てゆくうち独自性と歴史の深さに富むあたかな町であると感じた。唐子鍵考古学ミュージアムでは、遺跡から出土した破片など細かいものまで展示され、すべて本物であると意識しつつ見て回ると、何とも言えない感動に浸った。一気に今いる空間が縄文・弥生となりスピリチュアルな気分さえなった。一つ一つの展示はライトアップされていたが、展示によってライトの色彩が異なっていたことでその展示物の特徴をより際立たせていたので、見せ方の勉強にもなった。
32	奈良に現代アート風の建造物があることが驚きだった。
33	実際に使われてたものを触れることができ、弥生時代の生活を想像できやすかった。
35	あまり見たことの無いような形の埴輪や、土器の模様、勾玉があり、弥生時代に関する知識に新たな発見があった。
37	聞いただけでは分からない、田原本の土地や建物を実際に見れたのが良かった。田原本生涯学習センターを見た感動はひとしおだった。

## 調査報告

第10の6表 この活動で得られた知識、経験を今後のあなた自身の勉学にどう活かすか。

調査者番号	観察結果
22	せっかく地元の良い教材があるのだから、もっと活用するべきだと感じた。また上でも述べたように、高校時代私は日本史選択ではなかったので、改めて日本史を勉強したいと心底思った。
23	一見なんの特徴もない土地の風景にも歴史が込められており、それを普段から意識することも重要だ。
28	現地に赴くことは応用できると感じた。
29	今回、事前に卑弥呼の故郷としてどのように発展していたかや、なぜこの場所が発展したのかについて疑問をもち取り組んだため、職員の方のお話や展示物を見て学びを深めることができ、良かった。狩りから稲作へと変化した時代の移り変わりを土器などの展示物を通して視覚でとらえることが出来たので、この先も忘れることはないと感じている。
32	奈良に関する実態調査の際に、比較対象として活用する。
33	もっと規模が小さいものであると思ってのだが実際に足を運んでみると違うと感じ何事にも実際に足を運ぶのが大切であると感じた。
35	考古学の講義や、高校までの歴史の授業では習わなかった、知らなかったような知識を覚え、自分自身の歴史に対する知識を深くしていきたい。
37	田原本の街を実際に歩き、気になる部分も出てきたので調べてきたいと思う。

## 11. 田原本町道の駅「レスティ唐古・鍵」までの移動中における観察

第11の1表 徒歩移動中に眺められる景観で、興味があった地点とその内容

調査者番号	観察結果
22	2階から眺める景色は非常に良く、特に唐古・鍵遺跡の方角の風景は圧巻だった。小学校も建て替えられてからモダンなデザインになり、その風景と調和しているように感じた。
23	-
28	現代の建物と歴史的建造物が入り乱れる不思議な景観であった。
29	-
32	県外観光客が訪れても大丈夫なほどに駐車場が広い。
33	-
35	-
37	-

第11の2表 交通上の危険箇所、道路渋滞など、学習のための移動に際して、注意喚起の必要な場所とその内容

調査者番号	観察結果
22	レスティは国道24号線に面しているため、危険な通りであることは確かである。駐車場の出口は右折禁止となっているにも関わらず、平気で右折してくる輩が少なからずいることは嘆かわしいことである。
23	-
28	右左折する車などが多く危険であると感じた。
29	-
32	土地に段差があり、子供が怪我をする恐れがある。
33	-
35	-
37	-

第11の3表(1) 学習の場として利用する場合に、学生が予め準備しておくべきこと

調査者番号	観察結果
22	地元の野菜やお酒等、自然の素材を用いた商品が多いので財布持参は必須である。中でも、食パン「極み」は日本一美味しいのではないかと思うほどの出来栄である。
23	-
28	-
29	-
32	景色を撮るためのカメラ
33	-
35	-
37	-

第11の3表(2) 移動中の装備としてあったらよいと考えられるもの

調査者番号	観察結果
22	お腹いっぱい食べられるよう、きつめのジーパン等は避け、ベルトで調整できるような恰好が望ましい。
23	-
28	-
29	-
32	ヒールなどでは転倒のリスクが高いため、スポーツシューズ
33	-
35	-

## 調査報告

37	-
----	---

### 第11の3表(3) 移動中に安全にくつろぐための留意点

調査者番号	観察結果
22	お腹いっぱい食べられるような服装であれば、くつろぐ際にも大きな効果があると思う。
23	-
28	-
29	-
32	常に自転車などが来ていないかの注意喚起を行うこと。
33	-
35	-
37	-

## 12. 田原本町道の駅「レスティ唐古・鍵」での現地体験観察

### 第12の1表 ここでの見学によって田原本町に関してどのような興味深い知見が得られたか。

調査者番号	観察結果
22	展示内容にはあまり目を向けられなかったが、地域の農産物のポップは非常に分かりやすく、作られた方の顔が分かるのは買い手側としても安心感があると感じた。今回は地域の方々との交流はなかったが、平日の昼間でも来られている方はいらっしゃるので、田原本町民としてはこのままずっと栄えていってほしいと願うばかりである。
23	-
28	-
29	-
32	現地の特産品が売られていた。
33	-
35	-
37	-

### 第12の2表 案内板などの設置状況と説明文は適切、わかりやすかったか。

調査者番号	観察結果
22	やはり農家の方々の顔写真を載せることは、特に年配の方にとって非常に有効だと感じた。そういったところから意外な繋がりができることもあるので、この方式は是非変えないでほしいと思う。近所のおばちゃんがパー

	トで勤めておられるので、現地住民が占める割合はかなり高いと思う。故に、地元について詳しく知っている人が多いため、様々な話ができるように思う。
23	-
28	できたばかりの道の駅であり、綺麗な状態であった。道の駅ということで、車などが入りやすくなっており、現場適合性は高かった。
29	-
32	十分満足できるものだった。
33	-
35	-
37	-

第12の3表 町内の店舗で販売の商品にはこの遺跡に因んだものがあつたか。また、受け入れられ易いものだったか。

調査者番号	観察結果
22	展示内容は、当然地域性には合致していた。しかし、レスティのテーマが何かというと、思いつく限りでは唐古・鍵遺跡に観光に来られた方を癒す施設くらいしか思いつかないため、そういった意味では合致していたように思う。上でも再三述べてきた事項になるが、これ以上がないくらい現地の状況に合ったものであると感じた。ただ欲を言うと、たわらもトンはどこかで使ってほしいと思った。
23	-
28	商品の配置や駐車場の整備などが工夫されていた。
29	-
32	特産品や名物を販売していたので適合性は十分ある。
33	-
35	-
37	-

第12の4表 この活動で得られた知見は、今までのあなたの勉学とどのように関連するか。

調査者番号	観察結果
22	直接的に勉学に関わりがあるのかどうかはわからないが、地元のグルメとして果たす役割の大きさを実感した。
23	-
28	マーケティングなどの視点からも考察することができると感じた。
29	-
32	道の駅の設計に関して参考にできる。

## 調査報告

33	－
35	－
37	－

第12の5表 この活動の体験から、どのような発見があったか。ドキドキするようなことがあったか。

調査者番号	観察結果
22	なんといっても食パン「極み」。あの柔らかさと弾力は、どうやって作っているのかが気になる場所である。一度「極み」を超える食パンを探す旅に出てみたい。
23	－
28	道の駅の中でも比較的綺麗であり、購買意欲をそそられるものであった。
29	－
32	新たなタイプの憩いの場となっていた。
33	－
35	－
37	－

第12の6表 この活動で得られた知識、経験を今後のあなた自身の勉学にどう活かすか。

調査者番号	観察結果
22	これまでも述べてきたように、地元の特産品について深く知ることができた。今後はその知識を生かして、他の地域で作られた商品と食べ比べをしてみたいと思った。
23	－
28	現場に赴くことは様々な学問に応用できると感じた。
29	－
32	今後道の駅調査の比較対象にしたい。
33	－
35	－
37	－